

ノートルダム清心女子大学
地域連携・SDGs推進センター実績報告書

[2022 (令和4) 年度]

ノートルダム清心女子大学
地域連携・SDGs推進センター

目 次

センター長ご挨拶	1
I. センターの概要と新しい取り組み	2
1. 地域連携・SDGs 推進センターの概要	2
2. 総社市との包括的連携協定について	5
II. 地域連携活動の一覧と報告	6
1. 地域連携活動実績一覧	6
(1) 連携協定一覧	6
(2) 連携協定に基づく活動実績一覧（締結順）	6
(3) その他の活動実績（センター直轄の活動）	9
2. 地域連携活動報告（一部）	11
(1) 各連携協定に基づく活動（締結順）	11
【NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山との包括連携協定に基づく活動】	11
2022 年度「国際塾」の報告	11
【岡山市との包括連携協定に基づく活動：学生イノベーションチャレンジ】	13
「ツボジョーワールド探検隊」（「総合探究 I」）：坪田譲治文学から〈人への思いやり〉 を広げる活動へ	13
【岡山市との包括連携協定に基づく活動：その他】	19
「おかやま 秋の収穫祭『地産地消マルシェ 2022』」活動報告	19
「学生のためのワーク・ライフ・バランス講座」活動報告	21
(2) その他の連携活動に関する報告	22
社会福祉士課程における地域連携活動	22
由良病院との連携：「認知症予防のための食事会とレシピ集の作成」活動報告	24
中山間地域における課題の解決に向けた産学連携の試み：岡山県美作市におけるゼミの フィールドワーク実践	28
III. SDGs 推進活動の一覧と報告	31
1. SDGs 推進活動実績一覧	31
(1) 「SDGs 理解」推進に関する活動実績一覧	31
(2) SDGs の達成に関する活動実績一覧	33
2. SDGs 推進活動報告（一部）	36
(1) SDGs の達成に関する活動	36
ひなせ訪問を終えて（環境省中国四国事務所との連携）	36

安心な投票への一歩：有権者からのメッセージ	37
犯罪被害者支援ボランティア「あした彩」：人形劇制作	39
(2) 「SDGs 理解」推進に関する活動	40
特別講義「SDGs とノートルダム清心女子大学」(1 年生必修科目「人間論」)	40
SDGs 講演「国連 SDGs の基本と清心の取組み」	41
SDGs 講演「海洋・プラスチックごみ問題に関する基本的知識」	42
SDGs 講演「瀬戸内・岡山の環境と SDGs」	43
国際連合関連：UNU グローバルセミナーを終えて	44
国際連合関連：「国連 SDGs 入門」共同実施型：活動報告と感想	45
国際連合関連：2022 年度模擬国連活動報告	46
3. 本学の SDGs 推進活動に関する資料	50
(1) 国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム・リーフレット (2022 年度成果物)	50
(2) 本学の SDGs 推進活動に関する新聞記事・雑誌	51
(3) ナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィス・ブログ SDGs 記事 (訳)	52
(4) センター活動に対する外部チェック・学生評価 (試行) の記録	55
IV. 「清心フェリーチェ講座」(公開講座・生涯学習講座) の記録	56
1. 生涯学習センター：清心フェリーチェ講座	56
2. 清心フェリーチェ講座の記録 (2022 ～ 2013 年度)	57
(1) 2022 年度	57
(2) 2021 年度	57
(3) 2020 年度	57
(4) 2019 年度	57
(5) 2018 年度	59
(6) 2017 年度	61
(7) 2016 年度	63
(8) 2015 年度	65
(9) 2014 年度	66
(10) 2013 年度	68

センター長ご挨拶

地域連携・SDGs 推進センター長 濱西栄司

地域連携・SDGs 推進センターは、ノートルダム清心女子大学の建学の精神に基づき、地域への貢献、および、「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成を推進することを目的として2019年に設立されました。前身の地域連携センター(2014年設立)時代から、岡山市をはじめ、こくさいこどもフォーラム岡山(インターキッズ)、山陽新聞社、早島町、和気町、岡山市農業協同組合(JA岡山)と包括連携協定を結び、地域との連携協力に取り組んでまいりました。地域連携・SDGs 推進センターが大切にしていることは、その地域連携活動の「質」をより高めること(連携を双方向的なものに)、そしてSDGs 推進をグローバルに展開していくこと(岡山・瀬戸内から関西・関東、国際機関、世界へ)です。

2022年度の大きな変化は、新たに総社市と包括連携協力の協定を締結させていただいたことです—地方公共団体との包括協定は早島町、和気町、岡山市に次いで4例目。総社市は外国人労働者支援やジェンダー平等、育児支援、災害支援等でさまざまな先駆的取り組みをなさっておられます。総社市役所ではたらく多くの本学OGも、在学生にとって重要なロールモデルになってくださるでしょう。とくに公務員志望学生の多い本学としては、総社市独自の学生インターンシップ事業(人数上限なし。政策提言必須)に2023年度から本学学生が参加できることは大変ありがたいことです。また学術研究面での連携を明示している点は、初めてのことです。政策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータを活用したEBPM(Evidence-Based Policy Making)が求められる時代において、統計データ分析や情報処理を扱う学科や自然科学の学科を擁する本学が市の政策形成に寄与できることは少なくないと思われます。

また2022年度には、「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」(SDG-UP)において他大学・国連大学と連携しつつ構築した「国連SDGs入門」のパイロット版を他大学に先駆けて本学で実施しました(全学共通科目)。学科も学年も多様な約100名の受講生が集まり、非常に熱心に授業を受け、毎回のディスカッションにも精力的に取り組んでくれました。こちらの求めに応じて、授業コンテンツへのレビュー・フィードバックも数多く提供してくれました。その甲斐あって、SDG-UPの正式な授業科目と認められ、受講者に「修了証」が出るようになりました。プラットフォームの3月末の公開シンポジウムに本学が登壇し、またプラットフォームの2022年度リーフレットに本学が中心的に取り上げられているのは、そのためです。

その他にも、由良病院や女子サッカーチーム岡山湯郷Belle(ベル)との連携、清心フェリーチェ講座でのSDGs講座(ジェンダー平等とエコロジー)の実施などに取り組んできました。

本報告書は、それら2022年度の本センターの活動実績を記したものです。他にも各教員・学生、各学科はさまざまなかたちで地域連携やSDGs 推進の活動をおこなっていますので、それらは大学HPの学科ブログ等をご覧ください。本報告書の前半は「地域連携」、後半は「SDGs 推進」に充てていますが、区分はあくまでも便宜的なものです。また今報告書から、本学の公開講座・生涯学習講座の記録も、社会連携の成果として掲載していきます。

なお、本報告書中に山陽新聞社の記事が転載されていますが、これは同社との包括連携協定にもとづいて特別に許可されているものです。同社のご配慮に心から感謝いたします。

I. センターの概要と新しい取り組み

1. 地域連携・SDGs 推進センターの概要

設立の趣旨

ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センターは、前身の地域連携センターを拡充し、総合的な地域貢献活動と「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) の達成、及び関連学術研究・人材育成に取り組むことを目的としている。

活動のポリシー

- ・地域連携ポリシー：岡山・中四国地域の諸団体（地方自治体、産業界、メディア、公益社団・財団法人、NPO 法人等）との連携を引き続き発展させるとともに、京阪神・関東圏・海外の諸団体、国際機関、国際協力 NGO 等との連携も視野に入れる。
- ・SDGs 推進ポリシー：本学の母体ナミュール・ノートルダム修道女会の長年にわたる国際連合や開発途上国での活動、SDGs 制定への尽力、及び世界中の系列大学・学校での SDGs 実践等をふまえた「SDGs 理解」と、女子大学である本学の特徴をふまえた SDGs の達成とを推進する。

組 織

名 称：ノートルダム清心女子大学 地域連携・SDGs 推進センター

(NDSU Center for Regional Collaboration and SDGs Promotion : NRS)

開 設 日：2019 年 4 月 1 日（旧 地域連携センター 開設日：2014 年 4 月 1 日）

スタッフ（2022 年 4 月 1 日）：センター長 濱西 栄司

主任 濱崎 絵梨

所員 Sr. 高木 孝子

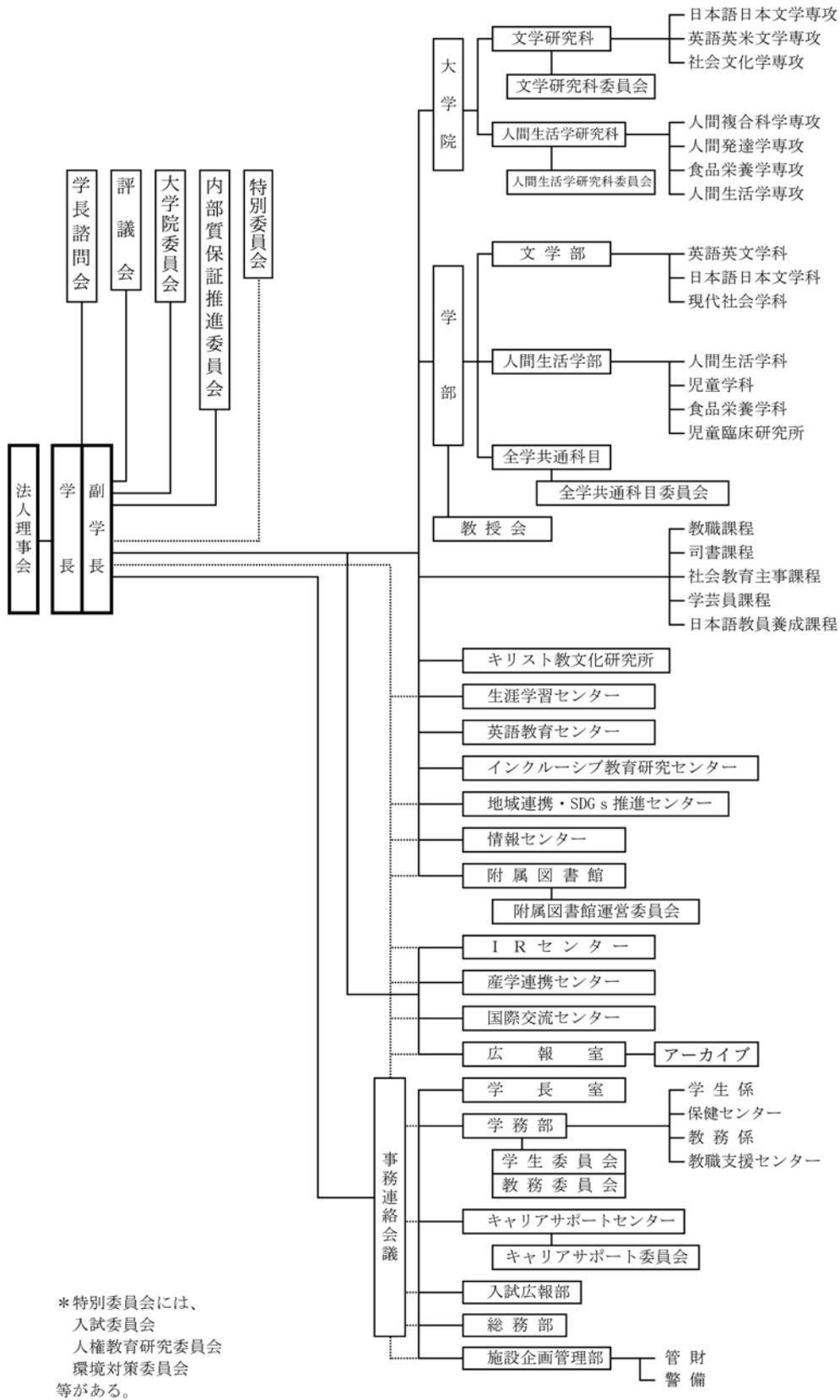
所員 豊田 尚吾

事務職員 藤原 久美子 渡邊 恭子

センター外観



ノートルダム清心女子大学運営組織（2022（令和4年）年4月1日現在）



*特別委員会には、
入試委員会
人権教育研究委員会
環境対策委員会
等がある。

ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センター規則

(設置と目的)

第1条 ノートルダム清心女子大学（以下、「本学」という。）の建学の精神に基づき、地域社会への貢献、及び「持続可能な開発目標」（SDGs）の達成を推進することを目的として、地域連携・SDGs 推進センター（以下「センター」という。）を置く。

2 センターの英語名を NDSU Center for Regional Collaboration and SDGs Promotion とする。

(地域連携・SDGs 推進センター運営会議)

第2条 本学における地域連携及びSDGs 推進の方針を決定し、その具体的な内容を検討するため地域連携・SDGs 推進センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議については、別に定める。

(業務)

第3条 センターは、運営会議が決定する本学の地域連携・SDGs 推進の方針に従い、地方自治体、産業界、公益法人、NPO 法人、国際機関、国際協力 NGO 等、地域社会・国際社会で活動する諸団体と連携し、地域への貢献とSDGs の推進、学術研究、幅広い人材の育成を行う。

(組織)

第4条 センターの責任者として、地域連携・SDGs 推進センター長（以下、「センター長」という。）を置く。

2 センター長は、教員の中から学長が任命する。

3 センター長は、センターを代表し、これを統括する。

4 センターに主任を置く。主任はセンター長の命を受け、センターの業務を処理する。

5 センターに所員及び学外所員を置くことができる。

6 センターにワーキンググループを置くことができる。

(事務)

第5条 センターに事務職員を置く。事務職員は、センターの事務を処理する。

(経費)

第6条 センターに係る諸経費は本学の予算から支弁する。

(改正)

第7条 この規則の改廃は、運営会議及び評議会の議を経て学長が行う。

附 則

1. この規則は、2019年4月1日から施行する。

2. この規則の制定に伴い、従前の「ノートルダム清心女子大学地域連携センター規則（2014年4月1日施行）」は、廃止する。

2. 総社市との包括的連携協定について

2023年2月15日（水）、本学は、岡山県総社市と包括的連携協力協定を締結しました。この協定は、包括的な連携のもと教育、福祉、まちづくり等の分野において相互に協力し、地域社会の持続的な発展と人材育成に寄与することを目的としています。



協定書を手 片岡総社市長（左）と津田葵学長（右）

ノートルダム清心女子大学と総社市との連携協力に関する協定書

ノートルダム清心女子大学と総社市は、相互の発展に資するため、教育、福祉、まちづくり等の分野において協力するために協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、包括的な連携のもと教育、福祉、まちづくり等の分野において相互に協力し、地域社会の持続的な発展と人材育成に寄与することを目的とする。

（連携協力事項）

第2条 両者は、前条の目的を実現するために、次に掲げる連携協力を進めるものとする。

- (1) 教育、福祉の振興・発展のための連携
- (2) 人材育成のための連携
- (3) 地域づくり・まちづくりのための連携
- (4) 学術研究に関する連携
- (5) 相互の施設利用に関する連携
- (6) その他両者が協議して必要と認める連携協力

（連携協力の推進）

第3条 前条に掲げる連携・協力事項の内容等については、両者協議し決定・実施するものとする。また、連携協力を円滑かつ効果的に進めるために、両者に窓口を設置し、必要な連絡調整を行う。

（有効期間）

第4条 本協定の有効期間は、協定締結の日から令和6年3月31日までとする。ただし、期間満了の日の1か月前までに、双方いずれから別段の意思表示がない限り、更に1年間本協定を更新するものとし、その後も同様とする。

（その他）

第5条 この協定に定めるもののほか、必要な事項については、両者が協議し決定するものとする。

令和 5年 2月 15日

ノートルダム清心女子大学学長
総社市長

Ⅱ. 地域連携活動の一覧と報告

1. 地域連携活動実績一覧

(1) 連携協定一覧

- ・2014（平成26）年6月1日
岡山市教育委員会との間で連携協力に関する協定を締結
- ・2014（平成26）年8月8日
早島町との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・2014（平成26）年8月25日
株式会社山陽新聞社と包括的連携協力に関する協定を締結
- ・2014（平成26）年8月25日
こくさいこどもフォーラム岡山との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・2016（平成28）年5月12日
和気町との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・2018（平成30）年5月23日
岡山市農業協同組合（JA岡山）との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・2018（平成30）年11月2日
岡山市との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・2023（令和5）年2月15日
総社市との間で包括的連携協力に関する協定を締結

(2) 連携協定に基づく活動実績一覧（締結順）

1) 岡山市教育委員会との実績

年 月 日	内 容
2022(令和4)年4月14日	令和4年度専門家支援チーム会議へ人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣依頼（指導助言）。派遣日：4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、9月30日、10月28日、11月25日、12月23日、2023年1月27日、2月24日
2022(令和4)年4月19日	岡山市スクールカウンセラーとして人間生活学部児童学科 東俊一准教授が委嘱。委嘱期間：2022年4月1日～2023年3月31日（年間220時間）
2022(令和4)年6月13日	「特別支援教育の支援を生かした授業づくり実践研究」校内研修会に、講師として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2022(令和4)年9月30日	令和4年度岡山県・岡山市教員等育成協議会委員として文学部日本語日本文学科 伊木洋教授が委嘱。 委嘱期間：2022年10月31日～2023年3月31日
2022(令和4)年12月26日	令和4年度岡山県・岡山市教員等育成協議会委員の委嘱、及び協議会に文学部日本語日本文学科 伊木洋教授が出席。
2023(令和5)年1月29日	令和4年度岡山市立公民館大会に助言者として、人間生活学部人間生活学科 濱崎絵梨准教授が出席。
2023(令和5)年2月8日	令和4年度第2回 岡山市特別支援連携協議会に委員として、人間生活学部児童学科 青山新吾准教授が出席。

2) 早島町との実績

年 月 日	内 容
2022(令和4)年9月10日	早島町立図書館講座講師に文学部日本語日本文学科 東城敏毅教授を派遣。出張講義「『万葉集』の巻頭歌と巻末歌―雄略天皇と家持―」 派遣日：9月10日、9月25日

3) 株式会社山陽新聞社との実績

年 月 日	内 容
【継続】 2021(令和3)年2月～ 2022(令和4)年12月	山陽新聞「山陽新聞を読んで」へ、濱西栄司センター長（文学部現代社会学科）が寄稿（2ヵ月に1度）。
2022(令和4)年8月24日	第73回岡山県美術展覧会（主催：岡山県・山陽新聞社等）審査員として人間生活学部児童学科 片山裕之教授を派遣。
2022(令和4)年4月1日	山陽新聞カルチャープラザ講師として文学部日本語日本文学科 東城敏毅教授に派遣依頼。出張講義「『万葉集』の世界」 期間：2022年4月1日～2023年3月31日
2022(令和4)年5月23日	吉備創生カレッジ（大学コンソーシアム岡山・山陽新聞社の共催）講師として人間生活学部人間生活学科 深谷信介教授に講師依頼。出張講義「誰でもできる！シン話し方講座 プレゼンテーション技法のご紹介」
2022(令和4)年8月26日	吉備創生カレッジ講師として文学部現代社会学科 久野洋講師に派遣依頼。出張講義「近代日本の政治家 明治期の犬養毅」
2022(令和4)年10月17日	吉備創生カレッジ講師として文学部日本語日本文学科 野澤真樹講師に派遣依頼。出張講義「江戸の手紙と推理の楽しみ 江戸時代の小説に親しむ」
2022(令和4)年10月26日	吉備創生カレッジ講師として人間生活学部児童学科 池田尚子准教授に派遣依頼。出張講義「日本の秋を歌う 秋の童謡・唱歌を美しい日本語で歌う」

4) 岡山市との実績（その1：委嘱・依頼関係）

年 月 日	内 容
2022(令和4)年4月27日	岡山市「文学によるまちづくり部会」委員として文学部日本語日本文学科 山根知子教授が委嘱。委嘱期間：2022年5月30日～2023年3月31日
2022(令和4)年4月27日	岡山市「文学によるまちづくり部会」委員として人間生活学部児童学科 村中李衣教授が委嘱。委嘱期間：2022年5月30日～2023年3月31日
2022(令和4)年5月2日	岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員として文学部日本語日本文学科 江草弥由起講師が委嘱。委嘱期間2022年7月1日～2024年6月30日
2022(令和4)年5月9日	岡山市協働推進委員として人間生活学部人間生活学科 深谷信介教授が委嘱。委嘱期間：2022年7月1日～2024年6月30日

2022(令和4)年5月19日	岡山西部総合公園（仮称）活用準備委員として人間生活学部人間生活学科 濱崎絵梨准教授が委嘱。委嘱期間：2022年5月27日～2023年3月31日
2022(令和4)年5月26日	岡山市都市計画審議会委員として人間生活学部人間生活学科 濱崎絵梨准教授が委嘱。委嘱期間：2022年7月1日～2024年6月30日
2022(令和4)年6月6日	特別支援教育研修推進事業指定園研修会に人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を指導助言者として派遣。
2022(令和4)年7月29日	岡山市の公立幼稚園・認定こども園・保育園の教職員向け研修講座に人間生活学部児童学科 西隆太朗教授を講師として派遣。
2022(令和4)年7月29日	岡山市防災会議委員として人間生活学部人間生活学科 山本幾子准教授が委嘱。委嘱期間：2022年9月1日～2023年8月31日
2022(令和4)年8月10日	岡山市の公立幼稚園・認定こども園・保育園の教職員向け研修講座に人間生活学部児童学科 三宅一恵准教授を講師として派遣。
2022(令和4)年9月16日	令和4年度「地域と家庭の子育て推進事業」第2回研修会に人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を講師として派遣。
2022(令和4)年10月21日	北地区精神保健福祉連絡会へ人間生活学部人間生活学科 中井俊雄准教授を講師として派遣。出張議題「ともに生きて ともに暮らすまちづくり～災害から考える地域とのつながり YOU & ME」
2022(令和4)年10月31日	中央地区元気の出る会「いきいき交流会」へ人間生活学部人間生活学科 中井俊雄准教授を講師として派遣。出張議題「さあ、元気の出る会に行こう！」
2022(令和4)年11月1日	令和4年度「地域と家庭の子育て推進事業」第3回研修会へ人間生活学部児童学科 片平朋世講師を派遣。保護者、「子育て広場」サポーター・スタッフを対象にわらべうたや絵本を通じた子育て支援について講演。
2022(令和4)年11月14日	岡山市基本政策審議会委員として文学部現代社会学科 山下美紀教授が委嘱。委嘱期間：2022年11月15日～2024年11月14日
2023(令和5)年12月9日	岡山市人事委員会委員として、人間生活学部児童学科 西井麻美教授が委嘱。委嘱期間：2023年2月1日～2027年1月31日
2023(令和5)年2月8日	令和4年度第2回「岡山市特別支援連携協議会」へ人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を委員として派遣。

5) 岡山市との実績（その2：地域連携・SDGs推進センター直轄の連携活動）

年 月 日	内 容
2022(令和4)年6月20日	岡山盛り上げよう会（岡山市移住・定住支援協議会）担当者とZoomにて打合せ。濱西栄司センター長が移住・定住・ESDに関連新規事業についてアドバイスを実施。
2022(令和4)年7月19日	岡山市政策企画課の令和元年度学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト進路調査アンケートへの回答。

2022(令和4)年 9月30日～11月27日	岡山市「岡山芸術交流 2022」ジャーナルプログラムへの本学学生参加を濱西栄司センター長が支援。岡山表町商店街にて展示。
2022(令和4)年12月18日	岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」岡山大学生の企画（本学キャンパスツアー）に濱西栄司センター長が対応。

6) 岡山市との実績（その3：担当教員を介した連携活動）

年 月 日	内 容
2022(令和4)年6月～ 2023(令和5)年3月	岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」ツボジョーワールド探検隊（日本語日本文学科 山根知子研究室）の連携活動の実施。【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年9月～ 2023(令和5)年3月	岡山市「文学によるまちづくり協働事業」（日本語日本文学科 山根知子研究室）の連携活動の実施。【詳細は活動報告に掲載】

7) 総社市との実績

年 月 日	内 容
2023(令和5)年1月11日	総社市政策調整課と包括連携協定について打合せ。 出席者：総社市総合政策部長、政策調整課課長補佐他 副学長（経営担当）、地域連携・SDGs 推進センター長他
2023(令和5)年2月15日	総社市との包括連携協定を締結。本学より津田葵学長、豊田尚吾副学長、濱西栄司センター長他が出席。
2023(令和5)年3月	総社市のトルコ地震被災者支援への協力として、市指定寝袋を10個寄付。

(3) その他の活動実績（センター直轄の活動）

年 月 日	内 容
2022（令和4）年 4月12日・5月12日	医療法人愛善会由良病院より地域連携・SDGs 推進センターに、連携プロジェクトについて企画提案。人間生活学部食品栄養学科 小見山百絵准教授と面談。
2022(令和4)年5月～ 2023(令和5)年3月	玉野市由良病院と小見山百絵准教授の「認知症予防のための食事会とレシピ作成」連携プロジェクトの実施。【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年7月4日	地域連携・SDGs 推進センター／生涯学習センターのTwitter開設(試験的開始)。主に在学生にイベント・事業を案内する際に、チラシ等をオンライン上にあげるために使用。
2022(令和4)年7月15日	岡山湯郷 Belle 石川部長の来学・会議(津田学長、濱西センター長出席)
2022(令和4)年7月26日	岡山商工会議所より「おかやま活性化ビジネスプラン大賞 参加企業募集！」の案内。
2022(令和4)年8月2日	中国銀行・山陽新聞社・サンマルク財団主催「岡山イノベーションコンテスト 2022 エントリー募集」について、Nサポで学生に紹介。

2022(令和4)年9月8日	岡山湯郷 Belle 担当者との打合せに文学部現代社会学科 二階堂裕子教授、濱西栄司センター長が出席。
2022(令和4)年10月29日	文学部現代社会学科 二階堂裕子教授が、中山間地域の課題解決に向けた取り組みとして美作市で湯郷 Belle と連携してフィールドワーク実施。 【詳細は活動報告に掲載】
2023(令和5)年1月7日	中国銀行・山陽新聞社・サンマルク財団主催「熱意を募る 求む、出る杭! :企業支援のビジネススクール第7期生募集」(岡山イノベーション・スクール 2023) について、N サポで学生へ紹介。
2023(令和5)年1月25日	ノートルダム清心女子大学の各基本方針の一つ、「社会連携・社会貢献に関する方針」の改訂。

2. 地域連携活動報告（一部）

（1）各連携協定に基づく活動（締結順）

【NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山との包括連携協定に基づく活動】

2022 年度「国際塾」の報告

児童学科 福原 史子
(NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山理事)

岡山県下の高校生たちが日本人としてのアイデンティティーと国際感覚を兼ね備え、グローバル社会に適応できる人材に育つことを目指す「こくさいこどもフォーラム岡山（INTERKIDS、会長／秋政孝一）」は、活動の一つとして「国際塾」を毎年開催している。これまでに 500 名以上の修了生を輩出しており、本年度は県下 14 校から 19 期生として 52 名（中学生 4 名を含む）を迎えて、国際問題や文化などを学び、幅広い視野や考える力を身に付けられるよう 11 回の講座を企画し実施した。カリキュラムは表 1 に示す通りであった。“How Do We Respond To Declining Population in Okayama?” を全体のテーマに設定し、卒塾式でグループ毎に英語でプレゼンテーションをすることを目指した。特に、本年度の新しい取り組みとして 7 月 30 日・31 日の 2 日間、閑谷学校や曹源寺において合宿研修を実施し、グループ活動や、英語プレゼンテーション講座、論語会読、座禅研修等を行った。

本年度は、コロナの収束が見通せず、本学関連の講座の実施ができなかった。包括連携協定により、本学を会場に実施される講座に関しては、本学の学生・教職員が無料で聴講できることから、次年度は本学関係者が多く参加し、有意義な学びができることを期待している。

表1 2022年度第19期「国際塾」のカリキュラム

NO	期日	テーマ	開催場所
第1回	6/12 (日)	入塾式 <杉山慎策塾長・沖垣達名塾長からのメッセージ> 卒業生先輩からのエール <田中茉莉子さん、釜口萌葉さん、平井理子さん> 2022年度課題「私たちは岡山の人口減にどう対応するのか？」出題 杉山慎策 国際塾塾長 (中国学園大学・中国短期大学 副学長)	岡山理科大学 50周年記念館 3F会議室
第2回	6/19 (日)	国籍とアイデンティティについて考えよう！ IPU・環太平洋大学助教 (マリ共和国出身) サコ・サリア先生	IPU瀬戸町キャンパス ラーニング・ラボ
第3回	7/17 (日)	世界のまちづくりを岡山で考える 岩淵 泰 准教授 岡山大学地域総合研究センター副センター長	西川原プラザ 第1会議室
合宿 研修	7/30 (土)	岡山県青少年教育センター (関谷学校) 合宿 「英語プレゼンテーションを始めよう！」 藤代昇丈先生 中国学園大学国際教養学部 准教授 講堂学習 (論語会読) 香山真一 所長 2022年度課題「私たちは岡山の人口減にどう対応するのか？」ディスカッション 杉山慎策 国際塾塾長 (中国学園大学・中国短期大学 副学長)	岡山県青少年教育 センター(関谷学校)
	7/31 (日)	坐禅入門～その意義と坐り方を学ぶ～ 原田正道 ご住職	護国山・曹源寺
第4回	8/7 (日)	ワイヤレス給電の世界 エネルギーは瞬間移動できるのか？ 一電気自動車が開く未来～ 石田弘樹准教授 岡山理科大学応用物理学科	岡山理科大学 50周年記念館 3F会議室
第5回	8/14 (日)	これからの未来を担うグローバル人材 JETRO (日本貿易振興機構) 岡山 相原君俊 所長	岡山国際交流センター 5F第1会議室
第6回	8/21 (日)	ともに生きていく～ウクライナ支援・南海トラフ防災を通して国際を考える 長谷奈苗 AMDA Project Officer/看護師 キャサリン・ドゥガルド ヘルメ国家防災局庁	岡山国際交流センター 7F多目的ホール
第7回	9/4 (日)	絵図で歩く岡山後楽園 万城 あき 岡山県郷土文化財団主任研究員	岡山国際交流センター 7F多目的ホール
第8回	9/18 (日)	児童福祉を考える～児童養護施設の現場から～ 児童養護施設若松園 津島 悟 園長	岡山国際交流センター 5F会議室(1)
第9回	10/9 (日)	台湾の歴史と日本～音楽は世界を結ぶ ～旅するピアノたち＝三台の歴史的な楽器で演奏 (塾生共演) 三船文彰先生 チェロ奏者・歯科医・音楽プロデューサー・台湾出身	劉生容記念館 岡山市中区湊836-3
第10回	10/16 (日)	アントレプレナーシップ (起業家資質) とは？ 中川美由貴 先生 ペンシルベニア大学教育大学院修士課程修了 啓心塾・みらい保育園教育ディレクター	岡山国際交流センター B1レセプションホール
第11回	10/30 (日)	2022年度課題「私たちは岡山の人口減にどう対応するのか？」<英語プレゼン> 卒業式&卒業パーティー 杉山慎策 国際塾塾長 (中国学園大学・中国短期大学 副学長)	岡山理科大学 50周年記念館 3F会議室

★毎回、冒頭で塾長講話 (経営学ミニ講座) 開催場所は、コロナウイルスの状況等により変更する場合があります。

★毎回講座は10:00～12:00ですが、12:00～13:00では希望者のみ講師の方と膝を交えて語り合う茶話会を設けます。

【岡山市との包括連携協定に基づく活動：学生イノベーションチャレンジ】

「ツボジョーワールド探検隊」(「総合探究Ⅰ」)

坪田譲治文学から〈人への思いやり〉を広げる活動へ

日本語日本文学科 山根 知子

岡山市島田出身の小説家・児童文学作家である坪田譲治(1890 - 1982)は、今年度2022年7月に没後40年を迎えました。これまで学生有志のメンバーで坪田譲治の地域への普及活動をしてきた「ツボジョーワールド探検隊」は、今年度は6年目を迎え、日本語日本文学科の授業「総合探究Ⅰ」(近藤友子・長原しのぶ・山根知子担当)の履修生7名が担うこととなりました。

今年度は、譲治が描いた弱い立場の人々へのあたたかなまなざしを紹介することを通して、譲治が伝えた豊かな心を福祉につなげ、探究・発信を行うことで、世代や立場を越えた人々との共生を目指すプロジェクトを計画しました。この活動は、今回も岡山市「学生イノベーションチャレンジプロジェクト」に申請して採択され、岡山市の支援を受けて活動を始めました。加えてこのテーマから発展させた活動として、2023年度に岡山市が国連科学文化機関(ユネスコ)の「創造都市ネットワーク」文学分野への加盟をめざしている取り組みの一環となる文学交流会を行いました。

そのひとつは、本学児童学科の村中李衣教授から指導を受けて福祉に力点を置いた高齢者施設の方との文学交流会で、もうひとつは、村中教授が担当する「自立力育成ゼミⅥ」の履修生と協働して文学による国際交流に力点を置いて開催した、韓国の大学生との文学交流会でした。

今年度の履修者7名のメンバーは、文学の福祉への拡がりと貢献を目標としつつ坪田譲治文学をあらゆる年齢層や社会的弱者とも共有できるように譲治紹介冊子を作成し、その内容をもとにした活動を行ないました。ロシアのウクライナへの侵攻が始まっていたことを憂慮し、争いをめぐる人々の心の問題を考えつつ、譲治が家業をめぐる争った体験を自省したなかで主張していた〈人への思いやり〉と平和への思いに焦点をあてて、冊子および活動のテーマを設定しました。

【「学生イノベーションチャレンジプロジェクト」で協働した団体】

岡山市立岡西公民館
坪田譲治の生家への道と童話を
生んだ能登川を整備する会
岡山市立石井小学校
岡山市文化振興課

【「創造都市ネットワーク」文学事業で協働した団体】

済生会ライフケアセンター
韓国・釜山外国語大学



坪田譲治紹介冊子

『実り多き未来へ～譲治と結ぶ人とのきずな～』



『山陽新聞』2022年10月28日

その冊子は、けんかをして二人が最後に仲直りする童話「けんかタロウとけんかジロウ」の二人の少年が、坪田譲治のこうしたテーマをめぐって案内するという形をとっています。家業での親族間の争いや第二次世界大戦を冷静に見つめた譲治が、こうした争いを越える他者への心をその文学に込めて発していることを伝える冊子となりました。作品を紙芝居や漫画にし、さらに歌詞や振り付けなどを考案して体操を作ったことで、冊子に生き生きとした彩りが加えられました。

この冊子をもとにした行事を行なうために連携した岡西公民館では、低学年の小学生から高校生、ご高齢の方々まで、会場いっぱい集まって坪田譲治の世界を楽しんでくれました。その行事で童話「けんかタロウとけんかジロウ」は紙芝居で、童話「きつねとぶどう」は紙人形劇で上演し、童話「ケイちゃんとかきのたね」から考案した体操も行ない、幅広く多様な年齢層の人々に文学の力が伝わるよう工夫して、譲治文学によって地域の皆さんの心をつなげる実践をすることができました。

主催：ノートルダム清心女子大学「ツボジョーワールド探検隊」
共催：岡山市立岡西公民館

坪田譲治没後40年事業

実り多き未来へ ～譲治と結ぶ人とのきずな～

ノートルダム清心女子大学の学生グループ「ツボジョーワールド探検隊」のみなさんが、昨年度に引き続き調査・研究成果を発表します。

今回は、坪田譲治作品を紙芝居や人形劇にして上演したり、新しいツボジョー体操を初披露したりと、子どもから大人まで、幅広い世代が楽しめるプログラムを大学生が考えました。坪田譲治や譲治作品を介し、私たちはどのように人とのきずなを結ぶことができるでしょうか？ ぜひ、ご参加ください。

【日時】 **12月11日(日) 13:30～15:30**

【会場】 岡西公民館

【対象・定員】 幼児・小学生から大人までどなたでも・45人(先着順)

【内容】

- ・ 坪田譲治の生涯についての簡単な紹介と、譲治が親しんだ能登川用水の水質調査の結果報告
- ・ 「けんかタロウとけんかジロウ」の紙芝居上演
- ・ 「ケイちゃんとかきのたね」の物語を表現した新「ツボジョー体操」の初披露
- ・ 冊子「実り多き未来へ」のイラストを用いた「まちがいさがし」コーナー
- ・ 「きつねとぶどう」の紙人形劇上演
- ・ 「ひとつぶのたね」に関連づけた「この種なんの種クイズ」など

【申し込み】受付中。12月10日(土)までに岡西公民館窓口または電話でお申し込みください。

【申し込み・お問い合わせ先】

岡山市立岡西公民館

岡山市北区下伊福西町1-48 電話・FAX 086-253-7581

《休館日》 水曜日・祝日(水曜が祝日の場合は翌木曜も休館)

《開館時間》 月・火・木・金・土曜日 …9:30～21:00

日曜日…9:30～17:00



ツボジョー体操「ケイちゃんとかきのたね」(2022年12月11日 於 岡西公民館)

岡山市「文学による心豊かなまちづくり」につながる活動では、岡山市がユネスコ創造都市ネットワークに文学分野で加盟申請を行うにあたってその弾みをつける行事を行なうことができました。本学児童学科の村中李衣先生のご指導のもと、「ツボジョーワールド探検隊」は、本テーマを福祉関係と国際関係に拡げることができました。

福祉関係では、高齢者施設（済生会ライフケアセンター）の入所者と2回にわたって交流し、讓治文学からのメッセージを、世代を越えて共有しました。また、国際関係では、日本語を学ぶ釜山外国語大学の学生との交流行事を行うことができました。韓国の学生も日本語と韓国語で韓国の昔話と伝承の朗読を披露し、国を越えて文学を核とした絆の構築が実現しました。



高齢者との文学交流 (2022年9月)

これらの活動は、コロナ感染対策のために、いずれもオンラインではありましたが、異年齢・異文化への新たな気づきや刺激を体感できました。特に韓国（釜山外国語大学）との文学交流は、『山陽新聞』およびOHKニュース (<https://www.ohk.co.jp/data/26-20221108-00000010/pages/>) に取り上げられました。

これらは、文学の力が現代の福祉の現場における活性化や海外との異文化理解に及ぶことを新たに証明してくれた活動であったといえるでしょう。学生たちは、「讓治文学が伝えた思いやりの大切さを共有して、みんなの生きる大切な社会をみんなで一緒に作っていきたいです」という願いを語ってくれました。



韓国の学生による朗読中のスクリーン（右下は両会場の学生）

日韓大学生による文学交流
 - 坪田讓治作品から「あらののはたけ」まで -

開催 2022年11月7日 17:00-18:30 16:30開場
会場 OHK KURUN HALL (クルンホール)
 岡山県岡山市北区下石井2丁目10-12 OHKオフィス 9階

第1部 ノートルダム清心女子大学学生
 上演 坪田讓治作『けんかタロウとけんかジロウ』 紙芝居
 朗読 坪田讓治作『きつねとぶどう』 ペーパーサート

第2部 釜山外国語大学生
 上演 神話『壺君神話』 朗読
 朗読 昔話『フンブとノルブ』 朗読

第3部 ノートルダム清心女子大学学生&釜山外国語大學生
 朗読 村中李衣作『あらののはたけ』

第4部 ノートルダム清心女子大学学生&釜山外国語大學生
 Q&A・感想

参加費 無料
申込方法 電話またはメールで参加者の名前、連絡先電話番号をお知らせください。
連絡先 岡山市文化振興課
 電話 : 086-803-1054
 E-mail : bunkashinkou@city.okayama.lg.jp

主催：ノートルダム清心女子大学 岡山市 岡山市文学振興委員会

日韓大学生による文学交流（2022年11月7日）

清心女子大と韓国・釜山外国語大

文学テーマ 理解深める

岡山市のノートルダム清心女子大学と韓国・釜山の釜山外国語大の学生が7日、文学をテーマにオンラインで交流した。岡山市出身の児童文学作家坪田讓治（8901982年）の作品を披露したり、韓国の昔話を朗読したりして互いの文化への理解を深めた。（常井聖之）

国連教科文化機関交流推進を高める加配に、岡山（ユネスコ）の認定 弾みを付けた。考慮で、都市が連携して発展を、岡大の学生約30人が参加。図る「創造都市ネットワーク」した。

フー）の文学分野加 ノートルダム清心女子盟を目標とする。大側は、坪田作品の「けきかたけ」を実現した。市んかタロウとけんかジロは市民レベルでも国際ウ」を紙芝居で上演し、

オンライン 坪田讓治紹介や朗読

けんか後に菜直に鞠を、きつねがきつねに注ことができない男の子へ無償の愛を伝えた。この創造都市ネットワークの心情を自作の絵と語 確信は正直者が救りて表現。坪田の筆話、われ、欲張りなきつねの目「きつねとぶどう」を見る韓国の昔話、フ月の加配申請を目標として、紙人形劇で披露し、親シブノルブを日本

坪田讓治の作品を紙芝居で上演するノートルダム清心女子大の学生

頭で紹介。岡大生がそれぞれ母国語で坪田讓治文学賞作品「あらののはたけ」（村中李衣ノートルダム清心女子大教授）を朗読することになった。

進行役を務めたケイトルダム清心女子大文学部2年藤井心音さん（20）は「文学で韓国の学生とつながることができてよかった。坪田作品を知ってもらえたことも大きな収穫」と話した。

岡大や岡山市が主催した。市によると、ユネスコ「創造都市ネットワーク」の2文学分野には海外の42都市が加盟。来年度5月の加配申請を目標として

『山陽新聞』2022年11月9日付

ツボジョーワールド探検隊活動日程

月	日	活動名	場所	活動内容
4	20	ツボジョーワールド探検隊6期生結成	本学	・本年度の活動方針について話し合い開始
	27	ミーティング	本学	・全体のテーマについての検討 ・活動にて取り扱う作品の決定
5	10 ・ 17	ミーティング	本学	・申請書について担当決定、作成作業 ・活動テーマ「福祉」に決定 「坪田譲治が伝えた豊かな心から見る福祉の探求と発信 -SDGsの視点からあらゆる人が共生する未来へ-」
	24 ・ 31	図書館展示説明・事前準備	本学附属図書館	・坪田譲治に関する展示作業
	6 ～ 7	ミーティング	本学	・冊子作成作業
8	2 ～ 19	冊子最終確認、発行へ	本学	・坪田譲治紹介冊子「実り多き未来へ～譲治とよりそう人のきずな～」原稿完成
	25	練習・録音・撮影	本学	・冊子に載せるQRコード用のツボジョー体操歌の録音と紙芝居と紙人形劇の練習と録画
9	15	高齢者施設との交流 (交流先：済生会ライフケアセンター)	zoom	・紙芝居「けんかタロウとけんかジロウ」
	21	高齢者施設との交流 (交流先：済生会ライフケアセンター)	zoom	・紙人形劇「きつねとぶどう」
	22 ・ 28	ミーティング	本学	・中間報告会資料作成
	後 期	※自立力育成ゼミⅤⅠの授業内と授業後に主に活動(9月～)		
10	12	ミーティング	本学	・韓国大学との交流のイメージ、質問の案候補
	15	中間報告会	岡山市会場	・これまでの実績報告
	19	ミーティング	本学	・韓国大学との交流の打ち合わせ
	26	zoom打ち合わせ (協働相手：釜山外国語大学)	本学	・11月7日の交流に向けて韓国大学側との打ち合わせ
	29	お魚ちょ～さ隊 (協働相手：能登川を整備する会・岡西公民館)	能登川用水	・坪田譲治のゆかりの地の川に触れる(用水路内に生息する生物の捕獲や水質調査)
11	2	zoom打ち合わせ (協働相手：釜山外国語大学)	本学	・11月7日の交流に向けて韓国大学側との打ち合わせ
	7	日韓文学交流会 (協働相手：釜山外国語大学)	OHKクルンホール	・紙芝居「けんかタロウとけんかジロウ」 ・ペープサート「きつねとぶどう」
12	11月～本番	公民館イベントの準備	本学	・公民館イベント計画
	11	岡西公民館イベント「坪田譲治没後40年事業 実り多き未来へ～譲治と結ぶ人とのきずな」	岡西公民館	・坪田譲治紹介冊子配布 ・能登川用水の水質調査の結果報告 ・紙芝居、ツボジョー体操、まちがいさがし、紙人形
	19	石井小学校全児童への冊子贈呈式	石井小学校	・紙芝居「けんかタロウとけんかジロウ」を実演
2	18	岡山市 活動報告会	岡山市会場	
	23	岡山市へ提出する実績報告書作成		
3	4	第38回坪田譲治文学賞贈呈式での冊子配布	岡山市民会館	

【岡山市との包括連携協定に基づく活動：その他】

「おかやま 秋の収穫祭『地産地消マルシェ 2022』」活動報告

人間生活学科 豊田 尚吾

1. 概要

岡山市産業観光局農林水産部農林水産課が主催する「地産地消マルシェ 2022」に学生の有志が協力した。このイベントは 2018 年度から毎年行っている継続案件である。「市民みんなで秋の収穫を祝い、岡山市の農業の魅力を発信する年に一度の農業まつり（岡山市 WEB サイトより引用）」との目的で行われている同企画に、より多くの若者を集客したいとの意図で本学に依頼があり、2018 年度から 5 年連続で協力することとなった。

2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、公園を利用したイベントができなかったが、2022 年度は 3 年ぶりに下石井公園でのイベント実施が可能になった。当日は産直農産物の販売ブースやグルメブースなどが出展（生産者は全 12 団体、飲食店は全 16 店）し、天気が良かったこともあり多くの人出でにぎわった。

2. 活動実績

①岡山市、企画運営会社（株）ビザビとの協働

2022 年 7 月 6 日に第 1 回目の打ち合わせを行った。結果として 4 学科 17 名がプロモーションおよび商品開発と実践販売（イベント当日）に分かれて活動することとなった。

②プロモーション

若者の集客をミッションとしていたため、主な広報ツールとして Instagram を用いた。9 月 8 日に開催した「マッチング商談会」、創作メニューの取材内容、どんぶり王選手権試食審査会、本チームが携わった商品開発の様子などを投稿し、関心の醸成に努めた。

③商品開発

季節の野菜を使い、子供も食べることのできるドライカレーとのコンセプトのもと、本学食堂を運営している株式会社レパストと交渉し、協働して商品開発を行った。基本的なアイデアを学生が提案し、試作などを経て商品を完成させた。

④実店舗の出店と販売活動

11 月 5 日（土）9：00～16：00 に開催されたイベント（於：下石井公園）で、店舗名「まるしえいしん 2022」とする実店舗販売を行った「野菜たっぷり食べていカレー〜」（600 円）と「やさしいチップス」（150 円）の販売を行った。

3. 成果・評価

多様な学生構成（複数学科、複数学年）であったため、連絡や相談の機会が制限されるなど、制約が多い中、①②に関しては岡山市の期待に一定程度答えられた。

③④の商品開発、実店舗販売では、協働相手の選出、交渉、費用面でのやりくりや商品の搬入、搬出などに岡山市、ビザビ、レパスト、教員などに多くの支援をしてもらった。一方、メニューの考案、パッケージデザイン、本学キャラクターの利用申請、マーケティング戦略などについては学生も努力し、独自性も発揮した。結果、カレー、野菜チップスを各100食用意した中で、野菜チップスは早々に完売し、カレーも午後1時前には完売した。

ただしカレーは温めすぎたため水分が蒸発し、一食当たりのグラム数では100食提供することができず販売実績としては70食にとどまった。結果、ライス（清心のブラ（レ）ンド米「晴れ晴れロマン」）が余ったため、PRを兼ねて無償で提供した。

商品製作を株式会社レパストに外注したため人件費がかさみ、合計の採算では赤字となった。その点で事業計画に甘さがあったことは否めない。しかし、様々な貴重な体験であり、来年度にもつながる活動となった。

（試作品）



（販売の様子）



（参考） おかやま秋の収穫祭 地産地消マルシェ 2022 ページ

URL: <https://www.city.okayama.jp/kankou/0000036754.html>

「学生のためのワーク・ライフ・バランス講座」活動報告

人間生活学科 豊田 尚吾

1. 概要

岡山市では男女共同参画社会の形成を促進し、女性が輝くまちづくりを推進するため、「学生のためのワーク・ライフ・バランス講座」を市内の大学で開催している。その目的は、これから就職を考える大学生を対象に、ワーク・ライフ・バランスの視点でライフプランを考えるきっかけをつくる。このことを通じて性別にかかわらず仕事と家庭を両立できることが大切であるという意識を醸成し、女性が職業生活において活躍できる環境づくりを図るというものである。担当部署は市民協働局市民協働部女性が輝くまちづくり推進課である。本学はその趣旨に賛同し、共催を決定した。

2. 活動実績

講座の内容は、岡山市内に勤務している企業人に登壇してもらい、パネルディスカッションを行うことを通じ「働く」ということの実感を学生に持ってもらうというものである。コーディネーターを本学教員が務め、人間生活学科の「生活経営学」の授業の一コマを使う形で（その日は履修者以外も参加可能とした）2022年11月8日（火曜日）に実施した。登壇者は損害保険ジャパン株式会社（勤続6年、営業職）、株式会社天満屋（勤続10年、人事部）、両備システムズ株式会社（勤続15年、SE）の3名であった。事前と事後に学生から質問を募り、事後の質問にはすべて登壇者からの回答を得、履修生と共有した。

3. 成果・評価

当日の参加者（学生数）は117人であった。現実の仕事内容や育児休暇の取り方、組織内での人間関係など、普段はあまり耳にすることのない内容で関心が高かった。事後アンケートでは「とてもよかった」が95人（81.1%）、「まあよかった」が12人（18.9%）で、「あまりよくなかった」「よくなかった」は0人であった。このことから充実した内容であったと評価できる。「自分の強みの発見方法」など、具体的で自分とのかかわりの中で生まれた質問も多く、学生が将来のキャリアを構想するうえで、貴重な経験となった。

（参考）岡山市大学生のためのキャリア形成応援事業ページ

URL：<https://www.city.okayama.jp/0000032674.html>

(2) その他の連携活動に関する報告

社会福祉士課程における地域連携活動

地域連携・SDGs 推進センター主任／人間生活学科

濱崎 絵梨（社会福祉士課程）

社会福祉士課程では、社会福祉士に必要な幅広い視野と実践力を涵養するために、ボランティア活動などの地域連携活動に取り組んでいる。本報告では、岡山 NPO センターと連携して継続的に実施している活動について報告する。

1. 活動の概要

活動の目的は、制度事業について正課の実習で理解を深めた3年生（今年度は9名）が、改めて地域社会の問題について俯瞰し、地域福祉活動への視野を広げ理解を深めるとともに、社会福祉士に必要な実践力を向上させることである。

活動の内容は以下の通りである。

①インタビュー（11月～12月）

地域福祉課題に対して多面的・創造的な実践をしている団体にインタビューを行った。今年度は、「ぬかつくるところ」「子どもソーシャルワークセンターつばさ」「岡山市ひとり親家庭福祉会」にご協力いただいた。

②後楽館高校での学習交流会（1月31日）

実習やインタビューを通じて学んだことや考えたことをスライドにまとめ、福祉を学ぶ高校生に発表した。発表後、グループに分かれて交流会を行った。高校生から、「楽しかった、勉強になった」「福祉について視野が広がった」「進路の参考になった」「自分もこんな先輩になりたい」などの感想があった。

③三大学（岡大・県大・清心）合同発表会（2月9日オンライン）

さまざまな地域課題について学ぶ他大学の学生との合同発表会で、一連の取り組み内容について発表し交流した。

④現在、ゆうあいセンター WEB マガジン記事および活動報告冊子「Volo!!」の作成中であり、4月中に発信・発行する予定である。

2. 学生たちの感想

学生たちの感想には、「地域福祉課題への視野が広がり、ソーシャルワーカーとしてどのようにかわることができるのか考察を深めることができた」「分野は違っても共通する福祉の価値について考え

ることができた」「相手の立場に立った伝え方や説明の仕方について、難しかったがメンバーで相談しながら工夫することができた」「これからもさまざまな活動に積極的に参加し実践力と行動力を身につけたい」「福祉実践は、よい取り組みがあっても、知っている人や関心を持つ人が少ないため、自分たちが積極的に情報発信をしていきたい」などがあった。



インタビューの様子（12月9日）



学習交流会の様子（1月31日）

由良病院との連携：「認知症予防のための食事会とレシピ集の作成」活動報告

食品栄養学科 小見山 百絵

岡山県玉野市にある医療法人愛善会由良病院は、本学食品栄養学科の臨地実習Ⅰ（病院実習）をお引き受けいただいている施設である。昨年3月に2021年度の実習が実施され、そのときご施設からいただいた課題のひとつに地元の特産品を使った認知症予防のためのレシピ作りがあった。3年生の実習生3人が管理栄養士の方にご指導いただきながらレシピ作りを行い、冊子にして院内で配布、この様子は山陽新聞の玉野圏版でも取り上げられた。

そのご縁から、今回の「認知症予防のための食事会とレシピ集の作成」のお話をいただいたのが2022年5月の中旬である。5月下旬に由良病院で開催された朝食食事会を視察、認知症予防のための取り組みの一端を拝見し、学生の関わり方を考えた。以下に食事会とレシピ集作成までの日程を示した。

表1 認知症予防のための食事会、レシピ集作成の日程

期日	内容	関係者
2022年4月上旬	由良病院から連携について依頼	
5月12日	由良病院とのミーティング（NDSU） 「認知症予防のための食事会」開催について 食事会の意義・内容・日程、大学・学生に望むことについて説明	由良病院総務課
5月24日	朝食試食会視察（由良病院）	小見山
6月3日	ボランティア学生募集：食品栄養学科2年生に呼びかけ	
6月20日	初回学生ミーティング ・イベントの趣旨について説明 ・認知症予防に効果のある食材とそれを使用した一品を考える	学生
7月1日	由良病院とのミーティング（NDSU） イベントの概要や今後の予定を説明、要望をうかがう	学生、由良病院総務課、KEIRIN HOTEL10料理長
～イベントは8月31日開催予定～		
7月15日	学生ミーティング 各自が考えたレシピを紹介	学生
7月19日	由良病院訪問 院長先生より病院の取り組みについて、管理栄養士さんから 献立作成の注意点について説明を受ける	学生
7月23日	由良病院、調理長とのミーティング（KEIRIN HOTEL10） 献立の提示→料理長からアドバイスを受ける	学生、由良病院総務課、栄養科
8月11日	大学調理室で試作を行う	学生
～献立プレゼンテーション延期、イベントは12月8日に変更～		
8月～10月	冊子資料に掲載するレシピの作成	学生
10月	献立プレゼンテーションと配布資料の準備	学生
11月7日	献立プレゼンテーション（KEIRIN HOTEL10）	学生、由良病院総務課、KEIRIN HOTEL10料理長
12月8日	イベント開催	学生
12月～	冊子資料準備	学生
2023年3月下旬	完成予定	

食品栄養学科2年生にイベントへの参加を募ったところ、7人の学生が手を上げてくれた。まずはイベントの主旨と我々に期待されていることを説明し、認知症とその予防につながる栄養素や食品、それを用いた一品を考えることにした。イベントの開催が8月31日（水）に決まり、定期試験など学内行事を考えるとあまり時間がないことから、各自が自宅で料理の試作をしてレシピを完成させた。それを由良病院のスタッフとイベントの開催会場であり当日の料理を担当される KEIRIN HOTEL10 上月慧料理長に見ていただいた。料理長はスパイスを使った料理を得意とされており、効果的なスパイスの使い方を教えていただいた。7人が提案したレシピを組み合わせて2つのメニューを作り、プレゼンテーションをしてどちらかに決めることになった。

プレゼンテーションを行うにあたり、大学で全メニューを試作、試食をして味や分量、作り方の確認を行った。並行してプレゼンテーションに使用する資料作りに取り組んだ。パワーポイントを用いたスライド作りは初めてという学生が多かったが、メンバーで話し合いながらスムーズに作業を進めることができた。



(写真1 試作の様子)

当初8月16日（火）にプレゼンテーションが予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、プレゼンテーション、イベントともに延期となった。新たな日程が決まらず企画が宙に浮いたように感じる時期もあったが、学生たちは前向きな気持ちでできることを進めていった。認知症についてさらに理解を深めること、プレゼンテーションに用いるスライドを見やすくインパクトのあるものにすること、2つの献立から漏れた料理を冊子に掲載できるように完成させることに取り組んだ。

イベントの開催は12月8日（木）、プレゼンテーションは11月7日（月）に決まった。プレゼンテーションは KEIRIN HOTEL10 で行われ、料理長や由良病院の管理栄養士さんから、いずれの献立もよく考えられており選択が難しいとのことで、両方の献立から料理を選んで当日提供するひとつの献立とすることが決まった。



(写真2 プレゼンテーションの様子)

12月8日(木)のイベントには事前に応募のあった約30名方が参加された。由良病院の南辰也院長による認知症の話のあとに食事が提供され、それに先立ち学生がメニューの説明を行った。メニューは「鶏ササミとニンジンのレムラードソース、納豆と黄ニラのオムレツ、イワシ団子とカラフル野菜のトマト煮込み、カボチャのプリンとバケット」の5品、参加された方からは「おいしかったよ」、「ありがとう」といった言葉をたくさんいただき、学生からも笑顔がこぼれた。この様子は倉敷ケーブルテレビと山陽新聞で取り上げられた。



(写真3 メニュー説明の様子)



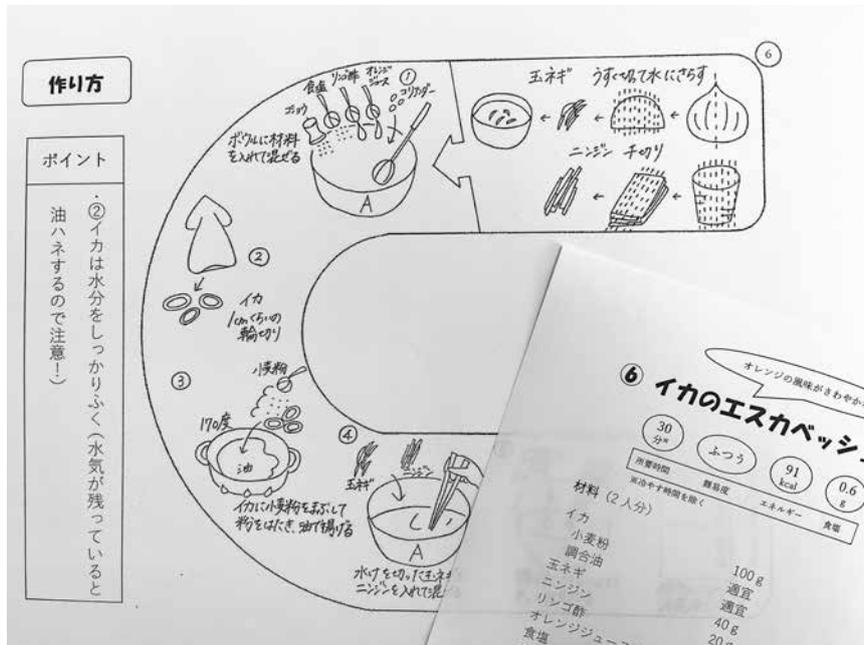
(写真4 提供された料理)

イベント終了後学生からは、

- ・いろいろなスタッフが連携してコミュニケーションをとりながらイベントを作り上げていく大変さと面白さを体験することができた
- ・参加者の方が真剣にプレゼンを聞かれる姿や笑顔で帰られるようすを見て、本当にやってきてよかったなと思った
- ・私もいずれ、参加した方の大きな学びとなり、喜びにもなるようなイベントを企画し、開催できるような管理栄養士になりたいと感じた

といった声が聞かれた。

イベントで提供された料理は、学生が考えたものの一部である。提供されなかったメニューについても地域の方に役立てていただけるよう、冊子づくりを進めている。高齢者や料理が得意でない方でも手に取っていただけるよう学生がレシピをイラストにし分かりやすいものにしていく予定である。



(写真5 配布レシピ案)

今回のイベントを通じて学生たちは、自分たちの学びの先にある一つのかたち、管理栄養士の専門的な知識や技術が人の役に立ち人を笑顔にできるということを具体的にイメージできたのではないかな。やりたいこと・なりたい自分・そのために必要なことを考える機会になったであろう。地域や社会と連携する中で得られる気づきや感動がある。今後もこうした機会を模索していきたいと考える。

中山間地域における課題の解決に向けた産学連携の試み：岡山県美作市

におけるゼミのフィールドワーク実践

現代社会学科 二階堂 裕子

「中山間地域における地域再生はいかにして可能となるか」。二階堂ゼミでは、地域社会学を軸としながら、こうしたテーマに取り組むため、これまで人口減少と少子高齢化の進行による地域社会の衰退が著しい岡山県高梁市や美咲町において、産学官連携によるフィールドワークを行ってきた。今年度は、美作市においてもこのような実践の機会に恵まれ、ゼミの3年生ともども、2回ほど現地に赴いた。

こうしたフィールドワークを行うことになったのは、美作市に活動拠点をおく女子サッカーチームの岡山湯郷 Belle（以下、「Belle」）関係者より、地域再生に向けた産学連携の依頼を受けたことがその契機である。美作市では、過疎化による経済活動の縮小に歯止めが利かないなか、コロナ禍の影響によって、とりわけ湯郷温泉の宿泊施設や飲食店などの事業所が大打撃を受け、存続の危機に陥っているところも少なくない。観光産業は地方経済における重要な基盤のひとつであり、美作市もその例外ではない。このような現状をふまえて、Belle の知名度をさらに高め、より多くのファンの獲得をめざすとともに、当該チームを支える地元企業を中心とした経済活動の活性化を促すことが、本活動のねらいである。

これに加えて、私がこの産学連携活動に関心を抱いた理由は、美作市でのフィールドワークが私の研究活動とも深く関わっているからである。私は、外国人技能実習生をめぐる現状と課題の解明を研究テーマの主軸に据え、数年前から美作市を対象とする調査研究に取り組んできた。同市は、市長の強力なリーダーシップのもとでベトナム人技能実習生の受け入れを精力的に進めていることから、研究対象としてきわめて魅力的な地域である。こうした思惑もあって、外国人労働者も視野に入れた当該地域でのフィールドワークを学生とともに実行したいと考えたのである。

現地訪問に先立ち、まずゼミにおいて、美作市の概要を調べることにした。学生が議論して「交通」「産業」「地域資源」の3つをテーマに定め、グループで現状と課題を調査して報告した。これをふまえて、Belle の関係者が設定して下さったインタビュー調査のために、質問項目を検討した。

こうした事前学習のあと、2022年10月29日（土）にゼミ生と美作へ向かった。当日は、Belle の選手3名に対するインタビューを行ったのを皮切りに、製材所と温泉旅館、および湯郷温泉観光協会へお邪魔して、それぞれ現在の課題や今後の展望について詳しく語ってもらった。フィールドワークを実施するにあたり、本来ならば、研究テーマに沿ってインタビュー調査の対象者を自ら選定し、調査への協力を依頼するという手順をふむことが不可欠である。今回は Belle の関係者がこれらをすべて引き受けて下さったので、学生がこれを経験するに至らなかった。けれども、おかげで Belle の選手やスポンサー企業関係者の惜しめない協力が得られ、当該地域が直面する現状に肉薄することができた。

この1回目のフィールドワークをふまえて、学生たちとその成果を整理するとともに、次なるフィー

ルドワークに向けた準備を開始した。今度は、学生がこれから何を明らかにしたいのか、そのために、どのような個人や事業所を対象に、どのような質問を行うべきかについて、検討を加えた。その結果、現地で多様な取り組みを展開する地域おこし協力隊、外国人技能実習生の受け入れ企業、新たな試みに挑戦を続ける温泉旅館、および次世代を担う若者を対象として、それぞれインタビューを行うことになった。

2回目の現地訪問は、2023年2月5日（日）と6日（月）の1泊2日で実施された。泊りがけとなったのは、少しでも現地での滞在時間を確保し、多くの情報を収集したいと考えたこと、また、現地の状況を深く理解するためには、実際に湯郷温泉に宿泊し、観光産業にふれてみるという参与観察が欠かせないと判断したことがその理由である。この2日間で、地域おこし協力隊3名、技能実習生受け入れ企業2社、都市出身の若手人材の活用に積極的な企業1社、湯郷温泉の旅館3館、および岡山県立林野高校を訪問し、聞き取り調査を行った。

2回目のフィールドワークは、1回目のそれ以上に示唆に富んだ、きわめて刺激的な2日間となった。いくつか例を挙げると、遊漁センターやジビエの加工工場で活動する地域おこし協力隊は、川魚や鳥獣（シカやイノシシなど）といった地域資源を活用することで、当該地域の付加価値を高めようと尽力していた。また、ベトナム人やタイ人の技能実習生を雇用している企業では、彼・彼女らと日本人社員が親密な関係を構築しつつ、事業の存続と発展に寄与していた。さらに、コロナ禍で宿泊客が激減した温泉旅館では、事業の大幅な縮小を余儀なくされる一方で、新たな顧客の開拓とリピーターの確保に向けて、サービスの見直しやブラッシュアップに果敢に取り組んでいるようすが見て取れた。最後に訪問した岡山県立林野高校では、1年生10名が美作のまちに対する思いについて忌憚ない意見を語ってくれた。

加えて、宿泊施設で体験したあるイベントは、学生ともども深く印象に残るものとなった。節分の日が近かったことから、夕食時に鬼とお多福に扮した3名が登場し、私たちが用意された豆を捲くというひとコマがあった。その翌日、美作市役所を訪れた際に、この3名が市の職員であったことが判明したのである。彼らがなぜ、宿泊施設でそうした活動を展開したのか、その詳細は不明であるものの、「観光産業あつての美作市、美作市あつての観光産業」という両者の有機的な強い結びつきを理解することになった。

以上、実質的には約半年間の活動であったが、この過程で、学生の美作に対する関心が深まっただけでなく、地域社会をどのような視点からどのように把握するのか、また、インタビュー調査を具体的にどう進めていくのかを、学生が身をもって学ぶことになった。なかには、4年次の卒業論文研究として、美作を取り上げることを決めた学生もいる。さらに、私にとっても、技能実習生に関する研究をめぐって、新たな視点を獲得する好機となった。

今後も引き続き、学生とともに、美作市における調査研究に従事したいと考えている。現在のところ、具体的な関わり方は未定であるものの、学生がより主体的にフィールドワークを進められるよう、また、何らかの成果を当該地域社会に還元できるよう、努めていきたい。

最後になったが、学生ともども、貴重な体験をすることができたのは、Belleの関係者のほか、私たちが温かく迎えてくださった美作のみなさまのおかげにほかならない。ここに記して、心から感謝申し上げます。



Ⅲ. SDGs 推進活動の一覧と報告

1. SDGs 推進活動実績一覧¹

(1) 「SDGs 理解」推進に関する活動実績一覧

1) 「SDGs」理解に関する寄稿・発表・説明・取材等

年 月 日	内 容
【継続】 2022(令和4)年3月18日	岡山市男女共同参画専門委員として濱西栄司センター長（文学部現代社会学科）が委嘱。委嘱期間：2022年4月1日～2023年3月31日
【継続】 2021(令和3)年3月23日	岡山県男女共同参画推進センター運営委員会委員として、濱西栄司センター長が委嘱。 委嘱期間：2021年4月1日～2023年3月31日
2022(令和4)年4月～8月	2022年度第1期授業科目「ディスカッションから社会を考える（国連SDGs入門）」開講（金曜日3限）担当：濱西栄司センター長 【詳細は活動報告に掲載】
2022（令和4）年4月～ 2023（令和5）年2月	2022年度第1期・第2期授業科目「人間論」にて濱西栄司センター長が特別講義「SDGsとノートルダム清心女子大学」を実施。 【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年4月10日	『山陽新聞を読んで』に濱西栄司センター長が「多様なジェンダー記事期待」寄稿。【資料編に掲載】
2022(令和4)年4月23日	岡山県男女共同参画推進センター運営委員会委員として、濱西栄司センター長が委嘱。 委嘱期間：2021年4月1日～2023年3月31日
2022(令和4)年5月12日	国連大学SDG大学連携プラットフォーム第1回全体会（Times Higher Education社SDGsインパクトランキング担当Duncan Ross氏の講演と議論）に濱西栄司センター長が出席。
2022(令和4)年5月23日	岡山市男女共同参画社会の促進に関する事業者表彰選考委員会に委員長として濱西栄司センター長が出席・表彰。
2022(令和4)年5月～6月	環境省中四国事務所と連携した瀬戸内海国立公園・観光プロジェクト（ひなせ海ラボ等との連携）に学生派遣。【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年6月12日	『山陽新聞を読んで』に濱西栄司センター長が「混乱の先、論じる姿勢を」寄稿
2022(令和4)年6月16日	国連大学SDG大学連携プラットフォーム・SDGsカリキュラム分科会に濱西栄司センター長が幹事として出席。
2022(令和4)年7月29日	国連大学SDG大学連携プラットフォーム・SDGsカリキュラム分科会に濱西栄司センター長が幹事として出席
2022(令和4)年8月14日	『山陽新聞を読んで』に濱西栄司センター長が「湯郷ベルと大学連携に注目を」寄稿 【資料編に掲載】

¹ 「地域連携」の実績としてすでに報告されているものは除いている。

2022(令和4)年9月16日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム全体会（中間報告会）において濱西栄司センター長が幹事として報告。
2022(令和4)年10月9日	『山陽新聞を読んで』に濱西栄司センター長が「海ごみ削減取り組み期待」寄稿 【資料編に掲載】
2022(令和4)年10月12日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム・SDGs カリキュラム全体会（SDGs ランキング上位大学 [精華大学] の講演と議論）に濱西栄司センター長が出席。
2022(令和4)年10月17日	山陽新聞朝刊（23面）に「国連 SDGs 入門」受講学生（佐々木愛美・本学英語英文学科2年）による「代理投票」についての記事掲載。 【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年11月	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームよりリーフレットに本学での「国連 SDGs 入門」実施について文章掲載依頼。3月に日英版完成。 【資料編に掲載】
2022(令和4)年11月17日	NPO 法人中四国アグリテック主催のセミナー「SDGs と食品ロス削減」にて、「国連 SDGs の基本と清心の取組み」と題し、濱西栄司センター長が講演。【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年11月21日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム・SDGs カリキュラム分科会に濱西栄司センター長が幹事として出席。
2022(令和4)年11月24日	令和4年度第2回岡山市男女共同参画専門委員会に濱西栄司センター長が委員長として出席。
2022(令和4)年12月3日・4日	第38回国連大学グローバル・セミナー（オンライン開催）に、本学学生2名（高木優衣：英語英文学科3年、佐々木愛美：英語英文学科2年）を派遣。【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年12月10日	「清心フェリーチェ講座」の新設「SDGs 講座」枠において講演「男女共同参画＝ジェンダー平等の過去・現在・未来」を実施。 講師：伊藤公雄（京都大学名誉教授、元内閣府男女共同参画会議専門調査会委員、元日本ジェンダー学会会長）
2022(令和4)年12月11日	『山陽新聞を読んで』に濱西栄司センター長が「ジェンダー平等の未来へ」寄稿 【資料編に掲載】
2022(令和4)年12月15日	岡山後楽園ロータリークラブ例会にて、濱西栄司センター長が講演「海洋・プラスチックごみ問題に関する基本的知識」を実施。 【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年12月17日	「清心フェリーチェ講座」のSDGs 講座において濱西栄司センター長が講演「瀬戸内・岡山の環境とSDGs」を実施。【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年12月19日～20日	岡山湯郷 Belle の2022年度謝恩会・情報交換会に、濱西栄司センター長が学長代理で出席。
2023(令和5)年1月17日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム全体会（SDGs ランキング上位大学 [Western Sydney University] の講演と議論）に濱西栄司センター長が参加。
2023(令和5)年2月7日	令和4年度第3回岡山市男女共同参画専門委員会に濱西栄司センター長が委員長として出席。
2023(令和5)年3月29日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム・公開シンポジウム（於 国連大学）に濱西栄司センター長がSDGs カリキュラム分科会幹事として登壇。

2) ナミュール・ノートルダム修道女会の「SDGs 理解」に関する紹介等の活動

年 月 日	内 容
2023(令和5)年3月22日	ナミュール・ノートルダム修道女会国際連合オフィス・ブログ (SND at UN) の SDGs 関連記事について日本語訳を作成 (英語英文学科学生が下訳作成。左記年月日に、センター長と協議・添削)。 【資料編に掲載】

(2) SDGs の達成に関する活動実績一覧

1) SDGs 推進機会の在学生への提供

年 月 日	内 容
2022(令和4)年4月5日	「国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム」で構築した「国連 SDGs 入門」(自立力育成科目 B 群「ディスカッションから社会を考える」)について、N サポで学生へ紹介。
2022(令和4)年4月24日	ウェブサイト「SDGs 高大連携プラットフォーム」にて本学と SDGs の関係や取組みが掲載された旨、N サポで学生へ紹介。
2022(令和4)年5月10日	「アースデイ岡山」(会場：天満屋岡山本店) の開催について、N サポで学生へ紹介。
2022(令和4)年5月11日	地域の課題やまちづくりに関する事業「若者発！まちプロ」の参加について、N サポで学生に紹介。
2022(令和4)年5月14日	岡山市主催「さんかくウィーク 2022」(男女共同参画週間)について、N サポで学生に紹介。
2022(令和4)年5月31日	「SDGs 講座」「インクルーシブ講座」等から成る 2022 年度清心フェリリーチ講座案内について、N サポで学生へ紹介。
2022(令和4)年6月9日	岡山市主催「さんかくカレッジ専門コース」について、N サポで学生に紹介。
2022(令和4)年6月10日	岡山市主催「岡山城主要部跡地ワークショップ」について、N サポで学生に紹介。
2022(令和4)年6月21日	特定非営利活動法人 NPO さんかくナビ「SNS 相談スタッフ募集」について、N サポで学生に紹介。
2022(令和4)年6月23日	環境省イベント「ハワイから学ぶ！森里川海のつながりとサステナビリティ」について、N サポで学生に紹介。
2022(令和4)年6月24日	日本版の大学・模擬国連 (Japan University English Model United Nations: JUEMUN) 2022 年度大会について、N サポで学生に紹介。
2022(令和4)年6月29日	岡山県 (備中県民局) 主催「学生の地域活性化事業 学生募集」について、N サポで学生に紹介。
2022(令和4)年7月20日	岡山市主催「岡山市の魅力全国へ拡散希望！岡山市魅力発信プロジェクト (仮) メンバー大募集！」の説明会について、N サポで学生に紹介。
2022(令和4)年8月2日	岡山市主催の社会貢献とビジネスの関係を考えるイベント「はたらく×地域貢献」について、N サポで学生に紹介。

2022(令和4)年8月2日	中国銀行・山陽新聞社・サンマルク財団主催「岡山イノベーションコンテスト 2022 エントリー募集」について、Nサポで学生に紹介。
2022(令和4)年8月8日	NPO 法人チャリティーサンタ「サンタになってみませんか？ NPO 法人チャリティーサンタ運営スタッフ募集」について、Nサポで学生に紹介。
2022(令和4)年9月11日	山陽新聞社主催「SDGs シンポジウム」の第3回「豊かな海 守るため」及び事前ワークショップについて、Nサポで学生に紹介。
2022(令和4)年9月26日	「第38回国連大学グローバルセミナー」大学推薦枠の募集について、Nサポで学生に紹介。
2022(令和4)年9月29日	岡山市主催（岡山商工会議所後援）のシンポジウム「企業を成長に導く女性活躍推進」について、Nサポで学生に紹介。
2022(令和4)年9月21日	国際ガールズデー（10/10）に合わせた大阪でのイベント「国際ガールズデー 2022：ウクライナの女の子の今と私たちにできること」について、Nサポで学生に紹介。
2022(令和4)年10月11日	岡山市主催「さんかくウィーク 2023 実行委員募集」について、Nサポで学生へ紹介。
2022(令和4)年10月24日	岡山市の学生活動支援金について、Nサポで学生へ紹介。
2022(令和4)年10月17日	国連大学グローバルセミナーの推薦者2名の募集について、学生にNサポにて紹介。11月2日決定。【詳細は活動報告に掲載】
2022(令和4)年10月27日	農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室、NPO 法人中国四国農林水産・食品先進技術研究会主催のセミナー「SDGs と食品ロス削減」（本学にて開催）について、Nサポで学生に紹介。
2022(令和4)年11月12日	山陽新聞 SDGs イベント 第4回「未来につなぐ食と農」について、Nサポで学生へ紹介。
2022(令和4)年11月25日	本学が加盟する「日本カトリック大学・短期大学連盟」主催のカトリック大学連盟シンポジウム「ウクライナ、そして地球の未来」について、Nサポで学生へ紹介。
2022(令和4)年11月25日	本学が参加する「SDGs ネットワークおかやま」のイベント「『生理の貧困』から『当たり前』を考える」について、Nサポで学生へ紹介。
2022(令和4)年11月30日	岡山市男女共同参画専門委員の東海林みゆきさん主宰の講座・ワークショップについて、Nサポで学生へ紹介。
2022(令和4)年12月7日	岡山市主催「ピッチコンテスト体験型ワークショップ」について、Nサポで学生へ紹介。
2022(令和4)年12月7日	国連若者組織&瀬戸内市主催「みんなの未来そうぞうコンペ」について、Nサポで学生へ紹介。
2022(令和4)年12月28日	PMI ジャパン主催「第4回 学生向けSDGs ビジネスモデル研修 - リーンキャンパス作成を中心に -」について、Nサポで学生へ紹介。
2022(令和4)年12月28日	SDGs ネットワークおかやま主催「みんなでしゃべろう すごろく De ゴール!!」について、Nサポで学生へ紹介。

2022(令和4)年12月28日	岡山市主催「さんかくウィーク 2023 イラスト募集」について、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年1月5日	SDGs ネットワークおかやま主催「岡山県を脱炭素社会にするための戦略会議」とパブリックコメントの募集について、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年1月7日	岡山市主催「20代のための社会貢献活動：はじめの一步—団体の活動体験と交流」について、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年1月7日	中国銀行・山陽新聞社・サンマルク財団主催「熱意を募る 求む、出る杭！：企業支援のビジネススクール第7期生募集」(岡山イノベーション・スクール 2023) について、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年1月7日	環境省関連の国際的なイベント「日本におけるワイルドライフ・ツーリズム 発展の可能性と展望」について、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年1月24日	岡山市主催「SDGs ユースキャンプ！」について、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年2月9日	岡山市主催「20代のための社会貢献活動 はじめの一步：団体の活動体験と交流」について、Nサポで学生へ再広報。
2023(令和5)年2月16日	岡山市の「若者の政治参画事業」NPO センター主催「第2回 多様化する家族に何が起きているのか」について、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年2月27日	本学と総社市との包括的連携協定締結(2023年2月25日)について、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年2月28日	山陽新聞社主催連続シンポジウム「SDGs 地域課題を探る」およびワークショップについて、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年3月1日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) の公開シンポジウムについて、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年3月6日	出展団体 (NPO 法人岡山市子どもセンター、NPO 法人タブララサ、岡山県国際交流センター、志塾フリースクール岡山、児童家庭支援センタークムレ、ホースセラピーサークル馬んまる、ゆうあいセンター) とのボランティア・マッチング会について、Nサポで学生へ紹介。
2023(令和5)年3月8日	岡山市男女共同参画推進センター (さんかく岡山) 主催「さんかくカレッジ専門コース」について、Nサポで学生へ再広報。
2023(令和5)年3月8日	岡山市主催「ESD カフェ×SDGs」について、Nサポで学生へ紹介。

2. SDGs 推進活動報告（一部）

（1）SDGs の達成に関する活動

ひなせ訪問を終えて（環境省中国四国事務所との連携）

現代社会学科 3年 大角 梨乃

2022年6月22日水曜日。この日は濱西先生と3年ゼミ生8人とで初めて出かけることとなった。私たち3年生が入学した2020年はちょうど新型コロナウイルス流行当初の時であり、約2年間はオンライン授業で大学生活を送っていた。そのため、顔見知りの同級生が少なく、ゼミ生8人もお互いが「はじめまして」の人が多かった。ゼミを進めるにあたり、私たちの親睦を深めようと、濱西先生がゼミ生全員で出かける日を計画してくださり、ひなせ訪問が実現したのであった。

ひなせ訪問当日は、朝が早かったこと、梅雨の時期であったが天気は快晴で暑かったことが印象的だった。7時に岡山駅に集合であったため、ゼミ生の子と「おはよう」「何時に起きた？」などと会話を覚えている。1時間ほど電車で揺られ、8時22分に日生駅に到着した。到着後、私たちは「ひなせうみラボ」に向かった。うみラボを運営する船橋さんは、私たちの訪問を快く受け入れてくださり、現在の瀬戸内海の状況を教えていただいた。うみラボは定期的に近くの小学生と協力して海洋プラスチックごみの回収活動と海ごみ問題に関する作品づくりなどを通して、1人でも多くの人に海洋汚染のことを知ってもらおうと学びの場を提供している。施設の外には、実際に海で回収したプラごみを利用して作成した魚型の模型が展示されていた。私はその作品に対する素晴らしさと同時に、材料は海から拾ってきたということで、海洋プラスチックごみ問題を肌で感じたように痛感した。うみラボ訪問の後、日生駅の隣にある「ひなせ観光協会」にお邪魔させていただいた。ここでは、環境省の古川さんが来てくださり、瀬戸内海国立公園についてお話を伺った。瀬戸内海国立公園は海域を含めると日本で最も広い国立公園とされる。岡山県には、鷲羽山と渋川海岸など8つの国立公園が指定されているが、私は全く知らなかった。この「知らない」ことは、環境省も課題と捉えており、広報活動も業務の一つとお話いただいた。



私は海洋プラスチックごみ問題に関心を持っており、報道番組やニュース記事で取り上げられる度に問題の深刻さを考えさせられている。そのため、今回のひなせ訪問は、自分の関心事を深める良い機会であった。うみラボ訪問を通して、やはり自分の目で見て、海ごみ回収活動に関わる方から聞く生の声には事の重みを感じた。海洋プラスチックごみ問題の対策と国立公園の維持をするには、人々の認知が必要不可欠だと言えよう。今回の訪問を終えて、私たちのような学生が1人でも多く社会問題に関心を持ち、実際に体験することの重要性を改めて実感した。



安心な投票への一歩：有権者からのメッセージ

英語英文学科 2年 佐々木 愛美

2022年6月～7月にかけて、参議院議員選出に向けた選挙戦が展開されました²。筆者も有権者の1人として投票を行いました。選挙の4原則³の1つである「秘密投票」の権利が侵害されるかもしれないという不安を抱えながら、票を投じました。

筆者は生まれつき体が不自由で、普段から様々な人の手を借りて生活しています。もちろん、選挙においても例外ではありません。しかしこの場合、差し出してくださる「手」、つまり、障害者に対する選挙制度が、有権者の権利をおびやかしているのかもしれないと思うときがあります。社会を批判するためではなく、社会が少しでも良くなることを願い、筆者は本稿を執筆しています。どうかご理解頂けると幸いです。

投票をするにあたって、有権者は投票記載台の上で投票用紙を記入する必要がありますが、通常の記載台は、立って記入する人に合わせて作られているため、車いすに座った状態で投票する我々はその台を使用することができません。その代わりに、我々は車いす用投票記載台の上で投票用紙を記入します。しかし、記載台の高さを有権者の車いすに合わせて調整することは難しいため、場合によっては、記載台の高さと車いすの高さが合わないといったことが起こります。筆者の場合、投票記載台の高さは、車いすの高さよりも低かったです。そのため、筆者が投票用紙に記入している様子が、他の有権者に丸見えになるという事態が起きてしまいました。幸い、他の有権者の方がこちらに気を留めることはなかったため、筆者の投票内容が部外者に漏洩されることはありませんでした。けれども今後もし、たとえ故意でなくとも、投票政党等が第三者にバレてしまう可能性があります。筆者は、このことをとても恐ろしく思っています。このような事態を防ぐために、関係機関は何らかの対応を講じる必要があるのではないかと感じました。具体的には、高さを容易に調整することが可能である、もしくはプライバシーに配慮した設計である、車いす用記載台の設置が、一策として考えられます。

筆者は、自分で投票用紙に記入することはできますが、記入済みの投票用紙を半分折り、投票箱に入れるといった作業を行うことは難しいです。そのため、投票立会人の方にその作業をしてもらえるように依頼する必要があります。一方、障害等によって、投票用紙に記入することが難しい有権者は、公職選挙法第四十八条によって定められた「代理投票」⁴に基づいて、票を投じることができます。しかし、私たちにとって、これらの行為は、自分たちの秘密を相手に託すことを意味します。有権者には、「投票した被選挙人の氏名又は政党その他の政治団体の名称若しくは略称を陳述する義務」⁵はありません。その黙秘権は、障害の有無によって左右されてはいけなと、筆者は考えます。たしかに、投

² この年の参議院選挙は、6/22に公示、7/10に投開票が行われた。(参考サイト: NHK.「参院選 2022 開票速報」. 参議院選挙 2022 特設サイト. <https://www.nhk.or.jp/senkyo/database/sangiin/> 2023年3月11日参照)

³ 「普通選挙」, 「平等選挙」, 「秘密選挙」, 「直接選挙」である。(参考サイト: 静岡県総合教育センター. 「民主政治と選挙 選挙の4原則」. あすなる学習室 シャカイのページ. https://gakusyu.shizuoka-c.ed.jp/society/chu/citizen/seiji/02_1_senkyo.htm 2023年3月11日参照)

⁴ 「心身の故障その他の事由により、自ら当該選挙の公職の候補者の氏名(中略)を記載することができない選挙人は、(中略)代理投票をさせることができる。」投票管理者が選出した、2人の補助者が、有権者の指示した候補者名・政党名を記入し、確認したうえで投票する。(引用・参照元: 総務省. 「昭和二十五年法律第百号 公職選挙法」. e-Gov 法令検索. <https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=325AC1000000100> 2023年3月13日引用)

⁵ 公職選挙法第五十二条に「投票の秘密保持」として明記されている。同サイト (2023年3月14日引用)

票立会人は選挙管理委員会が選出した人物であり、公職選挙法第二百二十七条⁶によって、有権者が投票した内容を公表することが禁じられています。とはいえ、やはり筆者は、立会人であっても、投票政党等を第三者に明らかにすることに対して、抵抗があります。

新型コロナウイルス感染症の流行は、我々に不便をもたらしましたが、同時に新たな光も与えてくれたと、筆者は感じています。それは、ICTが積極的に活用されるようになったことです。2023年初夏に、新型コロナウイルス感染症は現在の「2類感染症」から「5類感染症」へと移行されます。このことにより、オンライン会議等を行う機会は減少し、ICT機器がいつのまにか我々のそばから離れていくのではないかと、筆者は懸念しています。しかしむしろ、そのような状況だからこそ、ICT機器を投票手段の1つとして、社会全体で活用できるように、今後取り組んでいくべきだと筆者は考えています。

みなさんは、「電磁的記録式投票制度」⁷、すなわち「電子投票システム」⁸という、2002年から導入された制度を知っていますか？この制度は、電磁的記録式投票機、近年では「タブレット端末等の汎用機」⁹、いわゆるICT機器を使用して投票する方法です。しかし、このシステムを現在導入できるのは、「地方公共団体の議会の議員及び長の選挙」¹⁰のみです。また、システムを導入するためには、各自治体で条例を定める必要があります。筆者は、この制度が法制化され、国政選挙で導入されるといいなと思っています。

このシステムが導入されることによって、有権者は、投票用紙に記入したり、その後の投票作業を行ったりする必要がなくなります。機器にヘッドホンを取り付けることによって、視覚に障害がある有権者も、候補者名の読み上げを聞いたうえで、容易に投票することができます。また、機器を使用して投票することによって、投票立会人等からの助けを得ることがほぼなくなると考えられるため、障害を持った有権者たちも、安心して投票することができます。さらに、投票プロセスが電子化されることによって、ペーパーレスにつながり、地球温暖化の解決にも貢献することができます。しかし、実際の導入へとつなげるにあたり、筆者でも思いつかないような様々な課題があることが考えられます。

冒頭でも述べた通り、一学生である筆者は、社会を批判し、早急な変化を求めるつもりではありません。しかし、全ての有権者が障害の有無に関わらず、政治活動に参加できることを、ひいては、全ての人が互いに尊重しあいながら生活できる社会が築かれることを切に願っています。

障害者の一票 どう支援



岡山県選挙管理委員会が、障害者や高齢者が投票しやすいよう配慮が欠かせない。岡山県選挙管理委員会が、障害者や高齢者が投票しやすいよう配慮が欠かせない。岡山県選挙管理委員会が、障害者や高齢者が投票しやすいよう配慮が欠かせない。

「実態調べ改善して」

先述事例 岡山県選挙管理委員会が、障害者や高齢者が投票しやすいよう配慮が欠かせない。岡山県選挙管理委員会が、障害者や高齢者が投票しやすいよう配慮が欠かせない。岡山県選挙管理委員会が、障害者や高齢者が投票しやすいよう配慮が欠かせない。

『山陽新聞』2023年4月21日

「満一満」の完全な一致。選挙管理委員会が、障害者や高齢者が投票しやすいよう配慮が欠かせない。岡山県選挙管理委員会が、障害者や高齢者が投票しやすいよう配慮が欠かせない。岡山県選挙管理委員会が、障害者や高齢者が投票しやすいよう配慮が欠かせない。

『山陽新聞』2022年10月31日

⁶ 「(前略) 投票管理者、(中略) 立会人(第四十八条第二項の規定により投票を補助すべき者(中略))が選挙人の投票した被選挙人の氏名(衆議院比例代表選出議員の選挙にあつては政党その他の政治団体の名称又は略称、参議院比例代表選出議員の選挙にあつては被選挙人の氏名又は政党その他の政治団体の名称若しくは略称)を表示したときは、二年以下の禁錮又は三十万円以下の罰金に処する。(後略)」同上

⁷ 総務省. 「電磁的記録式投票制度について」. 総務省 選挙・政治資金. https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/touhyou/denjiteki/index.html (2023年3月14日参照・引用)

⁸ 同上

⁹ 同上

¹⁰ 同上

犯罪被害者支援ボランティア「あした彩」：人形劇制作

大学院社会文化学専攻 修士課程1年 黒田 栞古

筆者は、岡山県警察および岡山大学や岡山商科大学などの学生と合同で行われる、犯罪被害者支援ボランティアあした彩に所属している。人形劇制作はその活動の一環であり、交通事故防止の啓発を目的として、2020年の秋頃から始まった。

この人形劇は実話に基づいており、実在のモデルもいる。11年前の交通事故で命を亡くした、当時中学生の女の子である。その女の子のご遺族である母親の講演会が、制作を始めるそもそものきっかけであった。筆者は講演会のお話を基に台本作りに携わったが、講演会でご遺族が話した心の痛みや苦悩、そして、今を生きている人々に対する「家族や友人との時間を大切にしてほしい。」という願いを取り上げるように意識した。全て実話であるため、ご遺族を傷つけたり、筆者自身の先入観や誤解が入ったりする可能性もあり、台本作りは常に緊張感のある作業だったことをよく覚えている。台本完成後はご遺族にもお見せし、「娘のことをより多くの人に知ってほしい。完成を楽しみにしている。」と仰っていた。より真剣に、ご遺族の気持ちを大切に作り組もうと、改めて感じた瞬間であった。

制作活動は、台本作りをを行った筆者を中心として、約10人の学生が携わっている。それぞれ大学が異なるため、スケジュール調整がかなり難しく、1ヶ月に1～2回しか集まることが出来なかった。また、新型コロナウイルスの流行期でもあったため、完成の目処も大幅に遅れることとなり苦悩することも多かった。しかし、常に学生をサポートして下さる県警の方々をはじめとして、他大学の学生も真摯で協力的であり、少しずつ活動を進めることができた。ただ、人形劇自体が初めての経験だという学生も多く、もちろん筆者もその1人であるため、どのような人形を作るのか、どのような舞台を作るのか、音響や演技はどうするのかなど手探りの連続である。学生それぞれがインターネットや本から情報を調べたり、保育系の学生からアドバイスを貰ったり、元放送部や元演劇部の学生に演技指導を担当してもらったり（写真①）となかなか大変ではあったが、人形劇のノウハウを学ぶ貴重な経験となった。他大学の学生と交流する機会にもなり、筆者にとっては非常に意味のある活動になったと思う。



写真① 演技の練習



写真② 取材を受けた日の集合写真

また、県警の方が広報してくださったおかげで、マスメディアからの注目もいただいた（写真②）。去年1月には山陽新聞、今年2月にはNHK岡山が取材に来てくださり、学生主体の啓発活動という点に興味を持たれた様子であった。

人形劇の完成は今年3月中旬を目標にしており、完成後は、岡山県内の小学校や特別支援学校、公民館での公演を予定している。1人でも多くの方に、交通事故防止の意識や、交通ルールを守ることの意味、そして、ご遺族の届けたい思いが伝わってくれることを心から願っている。

(2) 「SDGs 理解」 推進に関する活動

特別講義「SDGs とノートルダム清心女子大学」(1 年生必修科目「人間論」)

「人間論」(全学部1 年生必修科目)の第3 回において、濱西センター長が、「SDGs とノートルダム清心女子大学」と題して特別講演を実施した。



SDGs 講演「国連 SDGs の基本と清心の取組み」

NPO 法人中四国アグリテックからの依頼で、2022 年 11 月 17 日に濱西センター長が「国連 SDGs の基本と清心の取組み」と題して講演を行った。

令和 4 年度「SDGs」の発展による持続可能な社会の実現

セミナー「SDGsと食品ロス削減」GOALS

国連「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けた取り組みを推進する。SDGsは、2016年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」であり、2030年までに達成を目指す。SDGsは、17の目標から構成されており、人々の生活や社会の発展に貢献しています。SDGsは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進する。SDGsは、2016年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」であり、2030年までに達成を目指す。SDGsは、17の目標から構成されており、人々の生活や社会の発展に貢献しています。

日時 令和 4 年 11 月 17 日 (木) 13:00~17:00

場所 ノートルダム清心女子大学 ヨゼフホールA棟 3F ヨゼフ300
(岡山県北區伊予田町下目1-1-1) ナオンライン (Zoomウェビナー)

定員 会場100名 オンライン100名 (各定員)

内容 (受付 12:30~13:00) 13:00~13:10 開会挨拶 NPO法人中四国アグリテック 理事長 神崎 浩 彦 13:10~14:10 講演1「SDGsと食品ロス削減対策」 農林水産省 大臣官房 総務課 食品ロス対策課長 藤原 大助 氏 岡山県 農林水産部 部長 橋本 隆 彦 氏 14:20~15:20 講演2「食品ロス削減に向けた大学生の取り組み」 岡山県立大学 学生生活課 課長 藤本 あゆみ 氏 15:20~16:20 講演3「国連SDGsの基本と清心の取組み」 ノートルダム清心女子大学 地域連携・SDGs推進センター長 濱西 宗典 氏 質疑・意見交換 岡山県 農林水産部 政策推進課 コーディネーター ノートルダム清心女子大学 教授 小林 謙一 氏 16:20~17:00 閉会 (17:10~17:30)

参加申込方法：中四国アグリテックのウェブサイト <http://www.agritech2022.jp/>、又はお電話03-6340-0000からお申し込みください。参加費無料です。参加費無料です。参加費無料です。

主催：農林水産省 農林水産部 政策推進課 研究開発推進課 岡山県 農林水産部 岡山県立大学 中四国アグリテック 共催：ノートルダム清心女子大学 協賛：公益社団法人 農林水産部 食品ロス削減推進委員会 (LAWRI)

食品ロス削減考える

清心女子大で、事例報告や講演
公明党議員 藤原 大助 氏
「食品ロス」の削減を
国連「持続可能な開発目標」の達成に向けた取り組みを推進する。SDGsは、2016年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」であり、2030年までに達成を目指す。SDGsは、17の目標から構成されており、人々の生活や社会の発展に貢献しています。

岡山県立大学 学生生活課 課長 藤本 あゆみ 氏
岡山県 農林水産部 部長 橋本 隆 彦 氏
ノートルダム清心女子大学 地域連携・SDGs推進センター長 濱西 宗典 氏
岡山県 農林水産部 政策推進課 コーディネーター ノートルダム清心女子大学 教授 小林 謙一 氏

『山陽新聞』2022年11月19日

1 国連SDGsの基本と清心の取組み

2 自己紹介

3 教育・地方・学校

4 SDGsの成果と課題からSDGsへ

5 持続可能な開発目標 (SDGs)

6 あるゆる環境で、あらゆる年齢のすべての人々の持続可能な生活を送る

7 質の高いエネルギーを普及させ、気候変動に対処する

8 包摂的かつ持続可能な経済成長と雇用を促進する

9 持続可能な産業基盤を構築する

10 持続可能な生産消費形態を確保する

11 持続可能な都市とコミュニティを構築する

12 持続可能な消費と生産パターンを確保する

13 気候変動に対処する

14 持続可能な海洋資源を確保する

15 陸域生態系を保護し、持続可能な開発と調和させる

16 持続可能な社会を構築する

17 持続可能なパートナーシップを促進する

18 Post-SDGsと日本

19 ベースにある大学の歴史・理念

20 SDG-UPの設立・清心大学

21 ご清聴ありがとうございました

22

SDGs 講演「海洋・プラスチックごみ問題に関する基本的知識」

岡山後楽園ロータリークラブからの依頼で2022年12月15日に「海洋・プラスチックごみ問題に関する基本的知識」と題して濱西センター長が講演を行った。

海洋・プラスチックごみ問題に関する基本的知識

濱西センター長 西村 隆一

簡単な自己紹介

- 濱西センター 1977年生まれ、京都大学大学院で博士号取得、京都大学、京都大学大学院で博士号取得、2013年から京都府立総合環境技術センター、2015年から京都府立総合環境技術センター、2015年から京都府立総合環境技術センター、2015年から京都府立総合環境技術センター...

1. プラスチックごみ問題

「ごみ問題は自然科学が取り巻くべきテーマだと認識されることは無い。だがこの問題を一歩中心にして見れば、自然科学の知見と社会経済的側面、個人としての倫理観・倫理観と、国としての倫理観・倫理観と、国際社会としての倫理観・倫理観とが交錯する点がある。」

医プラの排出量・リサイクル

排出量約7万トン
リサイクル約2万トン
=12万トン 増えよう輸出?

2. 海洋プラスチックごみ

海洋プラスチックごみ問題、1970年代後半に発生。2020年、タイ・ベトナム沿岸で大量の海洋プラスチックごみが発見された。

日本沿岸に漂着した人工物と海洋プラごみ

種類	品目	数量	重量	品目	数量	重量
漂流物	プラスチック	2843	148.3	その他	30.5	84.3
	その他	4414	4,105	その他	219	509
	合計	4,622	322	合計	2,015	843
	漂流物	103.3	814.1	その他	401.7	75.3
海洋プラごみ	漂流物	240	2,305	その他	1,365	448
	合計	607	724	合計	863	143
	合計	103.3	1,122.2	合計	401.7	75.3

まとめ：海洋プラ削減と海洋プラごみ問題

海洋プラスチックごみ削減と海洋プラスチックごみ問題に関する基本的知識。海洋プラスチックごみ削減と海洋プラスチックごみ問題に関する基本的知識。海洋プラスチックごみ削減と海洋プラスチックごみ問題に関する基本的知識。

産業廃棄物 プラスチックごみ

産業廃棄物 プラスチックごみに関する基本的知識。産業廃棄物 プラスチックごみに関する基本的知識。産業廃棄物 プラスチックごみに関する基本的知識。

一般廃棄物 産業廃棄物

一般廃棄物 産業廃棄物に関する基本的知識。一般廃棄物 産業廃棄物に関する基本的知識。一般廃棄物 産業廃棄物に関する基本的知識。

国際的関心の高まり

国際的関心の高まりに関する基本的知識。国際的関心の高まりに関する基本的知識。国際的関心の高まりに関する基本的知識。

海洋マイクロプラスチックごみ

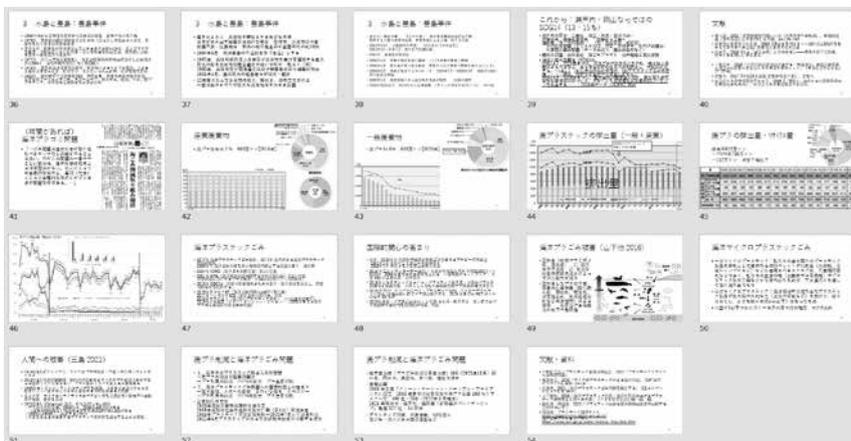
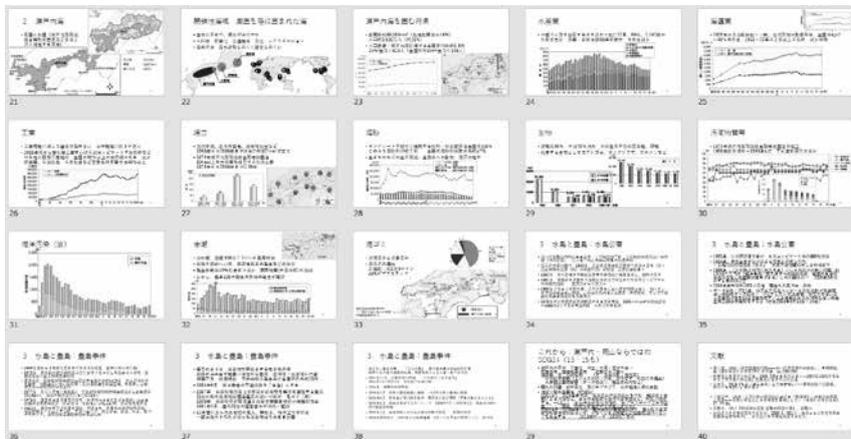
海洋マイクロプラスチックごみに関する基本的知識。海洋マイクロプラスチックごみに関する基本的知識。海洋マイクロプラスチックごみに関する基本的知識。

人間への被害（三島 2021）

人間への被害（三島 2021）に関する基本的知識。人間への被害（三島 2021）に関する基本的知識。人間への被害（三島 2021）に関する基本的知識。

SDGs 講演「瀬戸内・岡山の環境とSDGs」

清心フェリーチェ公開講座「SDGs 講座」において、2022年12月17日に濱西センター長が「瀬戸内・岡山の環境とSDGs」と題して講演を行った。



国際連合関連：UNU グローバルセミナーを終えて

英語英文学科 3年 高木 優衣

12月3、4、10日にわたり、オンラインで開催された第38回国連大学グローバルセミナーに参加しました。今回は、「人新世における持続可能なエネルギー - カーボンニュートラル社会達成のためのライフスタイル変革 - 」というテーマで、気候変動について考えました。

1日目は「気候変動と社会変革」という基調講演を聴いたあと、ワールドカフェが行われました。ワールドカフェでは、ブレイクアウトルー

ムで4～5人の小グループに分かれました。そこで、「パリ議定書の1.5℃目標を達成するために政治的、商業的なレベルで必要な行動」「温室効果ガスを減らすために個人が実践できる行動」「サステナブルな生活を妨げる障害」「それらの障害に対抗するために政策立案者ができること」という与えられた4つの問いをもとに議論しました。英語で自分の意見を言うのは勇気がいることでしたが、模擬国連で原子力や核セキュリティについて調べていたので、その知識を用いて議論に参加しました。様々な国籍の人と交流することで、異なる視点からの意見を聞くことができ、とても有意義なセッションでした。特に印象に残っているのは、日本はプラスチックが多すぎるという意見です。日本で暮らしていると当たり前で気が付きにくいですが、日本は他国と比べて使い捨てプラスチックに対する規制が緩く、消費量が多いということを知りました。

2日目は「カーボンニュートラルな世界のためのエネルギー大転換」という基調講演を聴いたあと、5人ほどのグループに分かれて、プレゼンテーション発表に向けて準備を行いました。私たちのグループでは、「パリ議定書でなぜ1.5℃が設定されたのか」「個人でできるカーボンニュートラルな生活」「カーボンニュートラルな生活を妨げる障害」「政治が果たす役割」という4つのパートに分けて発表することに決めました。スライドを作るうえで、それぞれワールドカフェで共有したアイデアを出し合いました。わからないところがあれば、共有し教え合いながら良い雰囲気での準備を進めることができました。3日目はそれぞれのグループで作ったプレゼンテーションを発表しました。エネルギーやファッション、公共交通機関などに焦点を当て、どれも興味深く勉強になる発表でした。

3日間を通して、参加者の知識量の多さに圧倒され、自分の知識の浅さを痛感しました。しかし、その中で学んだことは、ここで得た知識を日々の生活と結び付けて考え、実践してみることの重要性です。様々な人と話し、情報や知識を共有することで、今世界で起きていることを知り視野が広がったように感じます。しかし、たとえ小さなことであっても行動に移さなければ意味がありません。参加者の中には、NGOなどの団体で活動している人もいて、問題意識の差を感じ、私自身も何か行動に移さなければならないと強く感じました。



国際連合関連：「国連 SDGs 入門」共同実施型：活動報告と感想

現代社会学科 3年 村上 紗綾

私は大学で行われた国連 SDGs 入門の講義に参加したことをきっかけに SDGs に関心を持ち、今回の集中講座を受講することを決めた。大学内で行われた講義と異なる点は、13 の他大学から代表生徒が数名参加しているため、様々なバックグラウンドや経験、知識、考え方をを持った生徒が Zoom で集まりディスカッションできることである。私はこの講座に参加して、他大学が行っている SDGs 活動はもちろん、自分と違う立場にいる人間はどう考えるかという多角的な視点や、持続可能な社会を実現するために行動することの意義を学んだ。もちろん、この講座の特徴は他大学生とのディスカッションだけでない。まず、事前学習として SDGs に先駆的に取り組んでいる各大学の先生方によるビデオ講義がある。SDGs の歴史的背景、環境、国際的な開発問題、経済と投資、ジェンダー、参画と変革といった各分野から専門的な知識を学ぶことができる。自分の大学では馴染みのない分野であっても、どのような経緯で、どのような課題が発生しているのかが分かりやすく解説されており、問題の本質を理解しつつ、解決策まで考え、話し合うことが十分できると感じた。また、二つの討論課題があらかじめ提示されているため、自分の意見を整理してからディスカッションに臨むことができる。私自身、自分の意見をまとめながら話すことが苦手なので、事前にビデオ学習と討論課題が提示されていることで、スムーズにディスカッションに参加することができたように思う。

実際の講座の様子については、討論課題について4人のメンバーに分かれて話し合い、15分ほど話し合ったら全員が集まってコメント欄に意見を書き込んでいく。そして、その意見に担当の先生がコメントを返していくという形で進んでいった。大学での講義は、基本的にひとりの先生に対して多くの学生がいる。そのため、自分の意見にその場でフィードバックをもらえる機会は貴重であった。また、講座中に意見を拾ってもらえなかったとしても、受講生向けサイトから後々、学生一人ひとりにコメントを送ってもらえるようになっている。

今回の国連 SDGs 入門の講座は初めての試みであったため、自学習の時間短縮、先生によるフィードバックの時間の長さ、受講生向けサイトの使い方など、まだまだ改善の余地があったと感じるが、貴重な経験を得ることができた。この講座で得た知識と経験を基に、持続可能な社会について自分で考え続け、行動を起こしていきたい。



国際連合関連：2022 年度模擬国連活動報告

Tom Fast (英語英文学科教員)

片山さや華・田口美希 (英語英文学科 3年)

本学で開催された 2022 年度日本版模擬国連を含め、2022 年度の関連活動に関する報告を英語で行います。

NDSU Model UN 2022 Report

2022 was without a doubt, the best year Model United Nations year we have had at Notre Dame Seishin University. In June we held our first JUEMUN conference ever. It was also the first time for any JUEMUN conference to be held face to face since 2019, the first time it was ever held outside of Kansai, and the first time a Model UN of its size had ever been held in Okayama. In addition, we sent students to the prestigious NMUN International Conference, held in November in Kobe, and managed to host our 3rd OkaMUN Conference in December, with Okayama University. Below are reports on each event, written by the Model UN students themselves.



Japan University English Model United Nations (JUEMUN) Dates: Friday 6/24 - Sunday 6/26

Participants

- 165+ Student Delegates (33 international students = 20%)
- 20+ Faculty Advisors and Observers
- 75 high school student observers with parents and teachers
- 50 NDSU student volunteers
- Support from Members of the English Dept, PR Dept, Admissions, IT, Food Services and others

The Conference

The theme was “Safeguarding World Heritage for Future Generations.” 16 Draft Resolutions were collaboratively written, amended, voted on and passed regarding: Natural World Heritage, Cultural World Heritage, and Intangible Cultural Heritage. For details check: <https://juemun.org/archives/juemun-2022/>.

Student Feedback

The majority of students reported having a very positive experience. In particular, they spoke positively of being able to communicate their ideas to others, get support from other delegates, gain a better understanding about how the MUN works, enjoy using English, etc. In addition, they reported that they had gained knowledge on how World Heritage must be protected, and had increased confidence in English



and in general. Below are quotes from some of the NDSU participants:

I learned responsibility and leadership than before. I was a person who often lost confidence and quickly left things to others. Therefore, to participate in a meeting with responsibility as a Delegate and Facilitator was outside my comfort zone. I was difficult for me, but I wanted to change myself and worked hard to be like one delegate with confidence at least in the MUN class. Of course, I was nervous at the conference, but more than that, I was so happy to have a precious experience.

I met so many delegates from other universities including my meeting bureaus, and I got so much great stimulations. I saw students who says her opinion with confidence or asks questions actively. I felt I should be like her. Before having experienced MUN, I tended to hesitate to say something that I want to tell to others, but after the MUN, it gets easier for me, and I noticed that the importance of having confidence. Although only a few days passed after the JUEMUN, I can act actively in everything than 2 weeks ago.

All the MUN experiences helped me understand myself deeper, overcome my shyness, build self confidence, and strengthen the relationship with other MUNers!

Visitors also reported that they had an overwhelmingly positive experience and were greatly impressed by the hospitality of Notre Dame Seishin University volunteer students and staff.

NMUN 2022 Dates: Sunday 11/20 to Saturday 11/26

Participants:

- 298 delegates from 11 countries participated(NDSU sent 6 delegates representing Denmark and 2 representing Colombia)
- Faculty Advisors from each university



The Conference

NDSU students were divided into 3 different meetings at NMUN: The General Assembly; Economic and Social Council; and the Non-Proliferation Treaty (NPT). At the conference 15 Draft Resolutions written, amended, voted on and passed regarding the topics listed below:

- Addressing Food Security in a Globalized World (ECOSOC)
- Adapting Energy Systems for Energy Security and Climate Change Mitigation (GA)
- Strengthening Measures for Nuclear Society (NPT)

Student Feedback (by Sayaka Katayama, Third-year student of the NDSU English Department)

From November 23th to 26th, I participated in the National Model United Nations (NMUN) Kobe Japan 2022, held in the Portopia Hotel in Kobe Japan. I was a representative of Denmark, and belonged in the Economic and Social Council (ECOSOC).

About 7 months before, we started preparing for the conference. Based on my previous MUN experiences, I had researched a lot about my representative Member State, national politics, culture,



history, relations with other countries, lifestyles and so on.

The Meeting formally began on Wednesday 11/23. The agenda was decided. We would first address Food Security in a Globalized World, considering it as an emergency. Based on previous policies, we made working paper groups. Denmark worked with the representatives of France, Finland, Gabon, Congo and Madagascar. From day 3, we shared our Working Paper with other groups to get the signatories and thought about whether we could

merge with other groups based on our policies' similarities. As a result, we decided to merge with one of the groups, forming our coalition: Denmark, Austria, Bangladesh, Congo, Czech Republic, Finland, France, Gabon, Republic of Madagascar, Russian Federation and Zimbabwe.

On day 4, only the ECOSOC group went to Kobe City Council Chambers. We implemented the voting session in the actual chamber. Finally, Notre Dame Seishin University also received an award (Honorable Delegation).

It was my first time participating in the National Model United Nations, where students from other countries gather. Firstly, the participants' level of the English language was much higher than I expected, and it is actually one of the factors that caused me to lose confidence during the conference. From this experience, I learned that socializing skills help us a lot in such situations although I needed to have more skills for English to socialize. For NMUN, it is important to be extra prepared to participate.

Participating in NMUN was my dream. These 7 months were not easy for me, but the only thing that I can say is it was my pleasure to be involved in such a wonderful conference here in Japan as a representative of Denmark with my respectable NDSU peers and my honorable professor. It is a fact that I almost lost my mind along the way, but thanks to everyone's support, I overcame it and enjoyed the rest of the conference. I appreciate this opportunity, and would like to make an effort to give back to my juniors.



OkamUN 2022 Date: Saturday 12/10

Participants:

- 40 + delegates (NDSU: 18 delegates + 2 Chairs, Okadai: 25 delegates + 1 Chair)
- 2 Faculty Advisors

The Conference

3 Draft Resolutions written, amended, voted on and passed regarding:

- Promoting Mental Health and Improving Access to Care (GA)
- Promoting Sustainable Economic Participation of Youth (ECOSOC)
- Strengthening Measures for Nuclear Security (NPT)

For details check: <https://sites.google.com/view/okamun2022/home>

Student Feedback (by Miki Taguchi, third-year student of the English Department)

I participated in the OkaMUN 2022 as a delegate for Committee C, Nuclear Non-Proliferation Treaty Review (NPT): Strengthening Measures for Nuclear Security. Through the conference, I learned two things: Firstly, the Committee topic I was in charge of was clearly related to the war between the Russian Federation and Ukraine. On February 24th, the war began. Most Member States were afraid of whether the Russian Federation will not only launch nuclear missiles on Ukraine, but also attack the nuclear power plants of the Member State. Especially, in the Ukrainian situation, there was a concern that a hostile group could implement a cyber attack, which is a form of terrorism, that could take place at the Zaporizhzhia nuclear power plant at any moment.

Moreover, Japan has also faced a challenge about how to strengthen the securities of its nuclear plants. In 2011, the Fukushima nuclear power plant exploded, and the government has faced a lot of issues about not only the possibility of a repeat of the terrible accident but also the process of nuclear waste. Therefore, it was really difficult to create a draft resolution, but I realized that we had to recognise it as an issue for our sustainable and peaceful future.

Secondly, I learned the meaning of what a facilitator was. It was my duty to manage discussions smoothly. I regretted that I couldn't manage my meetings or make sure or summarize what other delegates said well due to my lack of English skills at the time. At the OkaMUN conference, reflecting on my past, I observed my facilitators. I found they prioritized whether we could share our ideas or ask questions to each other rather than explaining what we said every time. In addition,



when they explained some opinions, they used alternate phrases others could quickly understand.

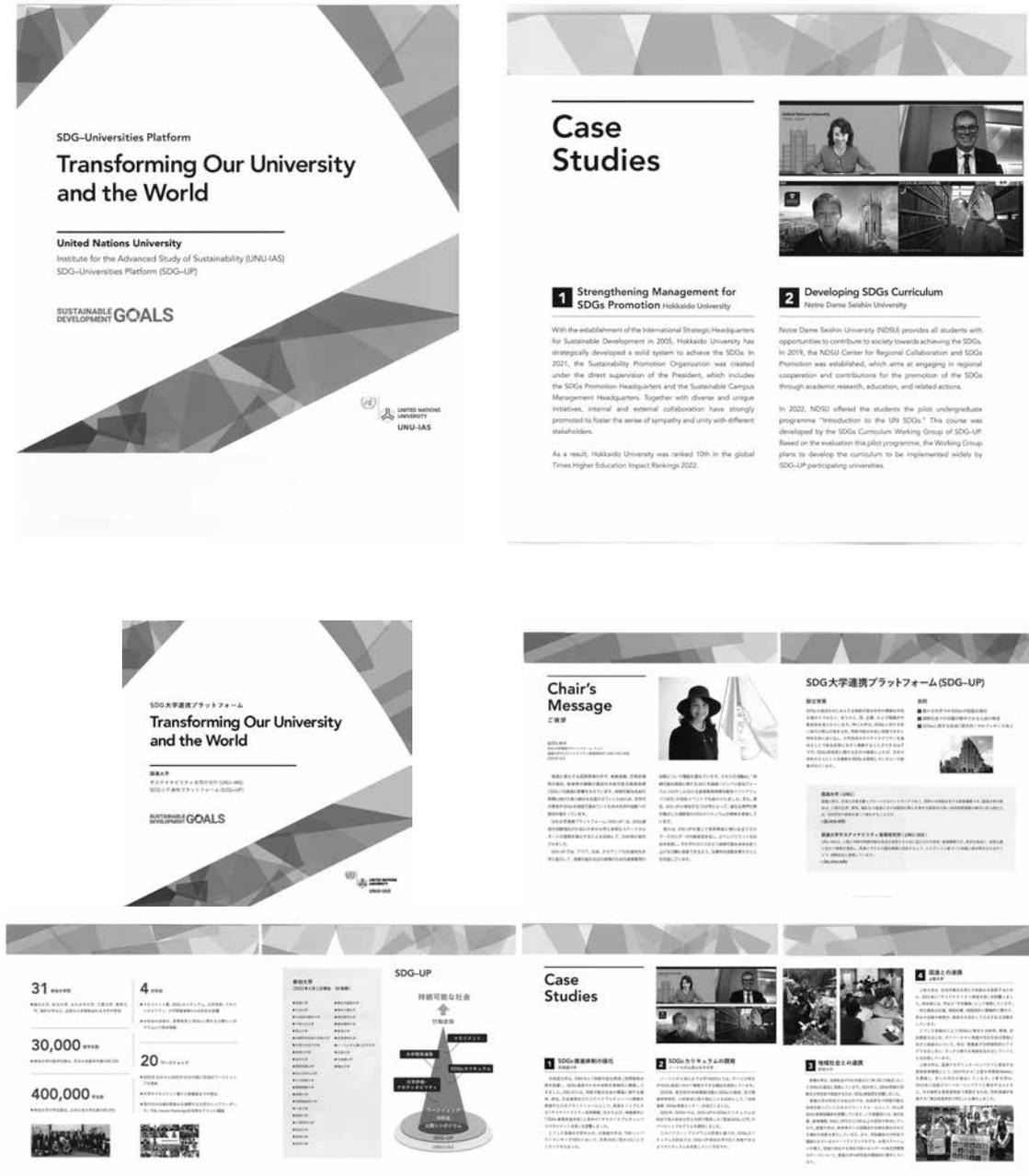
In short, they did their work as facilitators while considering the limited time for each discussion and our English abilities. I regarded that the role is not to always give others comments except for noticing those who wouldn't be able to keep up with the discussions within limited time. In addition, they needed to have awareness about other English skills and explain processes for each discussion briefly before starting discussions. By doing it, all delegates could join their discussions without anxiety. I thought these skills would be helpful for our future, especially after graduation. In conclusion, I would like to practice them in lessons or my teaching practice next year.

As you can see, 2022 was a very good year for the Model UN at NDSU. By organizing and participating in three major conferences, the students gained far more than English skills. They also gained in depth knowledge of global issues, learned how to better communicate and collaborate with others, and improve their own abilities for a successful future.

3. 本学のSDGs推進活動に関する資料

(1) 国連大学SDG大学連携プラットフォーム・リーフレット (2022年度成果物)

・ Case Studies の2で本学のSDGs授業 (「国連SDGs入門」) が紹介されています。



(3) ナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィス・ブログ SDGs 記事 (訳)

2019年度の本センター設立時から、本学設立母体のナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィスのブログ (<https://sndatun.wordpress.com/>) のSDGs 関連記事を翻訳し、実績報告書に掲載する取り組みを続けています。ご了承いただいた国連オフィス代表の Sr. Grace Amarachi Ezeonu に感謝いたします。なお訳文は英語英文学科3年鳴滝悠花によるもので、センター長によるチェックを経たものです。

今回は国連オフィス・ブログ開始時にさかのぼって最初の5つの記事を取りあげました。ブログには、国連でSDGsが議論され始める時期からの記録が掲載されていて、その資料価値が高いと判断できたからです。今後も、実績報告書においてその時期のSDGs関連ブログ記事の翻訳を続けていく予定です。



2011年度国連代表団に招待されています

投稿 2010年10月1日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ

ナミュール・ノートルダム修道女会の国連での活動にさらに関わることについてご検討ください。国連認定NGOとして、国連委員会が、われわれの経験と専門知識にアクセスできるようにします。その方法の1つとして、修道女会の様々な部門からシスターたちを以下の国連委員会会議にお招きします。

●社会開発委員会 (Commission for Social Development)

2011年2月2-11日 ニューヨーク

この国連委員会は、社会正義、人間中心の開発の促進、そして、貧困状態で暮らす人々に基本的ニーズへのアクセスを保証することを主として扱っています。第49回の会議では、貧困の根絶に焦点を当てます。この会議に関するより詳細な情報は、以下をご覧ください。 <http://www.un.org/esa/socdev/csocd/2011.html>

●女性の地位委員会 (Commission on the Status of Women)

2011年2月22日-5月4日 ニューヨーク

この国連委員会は、独占的にジェンダー平等と女性の進出に充てられています。第55回会議は、女性と少女の、完全雇用と働きがいのある人間らしい仕事を含む、教育、訓練、理科と科学技術へのアクセスに焦点を当てます。この会議に関するより詳細な情報は、以下をご覧ください。 <http://www.un.org/womenwatch/daw/csw/55sess.htm>

●持続可能な開発委員会 (Commission on Sustainable Development)

2011年5月2-13日 ニューヨーク

この国連委員会は、対話を促進し、政策選択を詳細に述べ、持続可能な開発のためのパートナーシップを構築します。この第19回の会議は、持続可能な消費と生産のパターンに関する10年の枠組み(a ten-year framework of programs on sustainable consumption and production patterns)に焦点を当てます。この会議に関するより詳細な情報は、以下をご覧ください。http://www.un.org/esa/dsd/csd/csd_csd19.shtml

●先住民族問題に関する常設フォーラム (Permanent Forum on Indigenous Issues)

2011年5月16-27日 ニューヨーク

このグループは、先住民族に関する、経済と社会の開発、文化、環境、教育、健康、そして人権について議論する権限を持つ国連諮問機関です。第10回の会議は引き続き、先住民族の権利に関する国際連合宣言(the United Nations Declaration on the Rights of Indigenous Peoples)に焦点を当てます。この会議に関するより詳細な情報は、以下をご覧ください。http://www.un.org/esa/socdev/unpfi/en/session_tenth.html

国連委員会が取り組む諸問題について学び、祈るだけでなく上述の国連会議にも興味をもたれるかもしれません。もし代表団に参加されたい場合や、会議の情報・コメント・質問がある場合は、SNDatUN@SNDdeN.orgのジーン・ストーナーまでご連絡ください。

少女の影響

投稿 2010年10月12日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ

「私たちは神のおぼしめしで、分断された世界の嘆きを、広がる貧富格差によって困窮した人々の嘆きを、そして、性的に搾取され、拉致され、排斥され、虐待される女性と子どもたち—特に少女たちの嘆きを聴きます。」

2008年ナミュール・ノートルダム修道女会総会

少女の生活を改善することは彼女の家族の生活を改善することでもあります。

このたった3分間の、力強いビデオをご覧ください：www.thegirleffect.org/video

国連女性機関 善のための新しい存在

投稿 2010年10月31日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ

チリの元大統領、ミチエル・バチェレは、新しく創立した「国連女性機関」(UN Women)の初代事務局長です。以前は別々だった、女性に関する4つの国連のワーキンググループを所管しつつ、既存のグループの予算の合計額の倍の予算を有して、バチェレ氏は女性に関する様々な問題により大きなインパクトをもたせるために、リソースと権限を1つにする任務を委ねられています。彼女を事務局長に任命するにあたって、潘基文(バン・ギムン)国連事務総長は、「ジェンダー平等を促進し、機会を拡大し、地球上の全ての差別に取り組もうとする国連の活動を、国連女性機関が大幅に強化するだろう」と述べました。

より詳しく：<http://www.unwomen.org/>
<http://www.unwomen.org/fr/>

アニ・ウィビーとドロシー・スタンはオーストラリアに行きます

投稿 2010年10月31日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ

MDGsの8つの目標のうち3つはグローバルヘルス(乳幼児死亡率の削減、妊産婦の健康の改善、疫病の蔓延の防止)の問題を扱っているため、オーストラリアのメルボルンで先月開催されたグローバルヘルスに関する国連／NGO会議は、ナミュール・ノートルダム修道女会にとって重要な集まりでした。ナミュール・ノートルダム修道女会を代表して、現在、ブラジルで務めを果たしているシスター・アン・キャロライン・ウィビーが、70か国1600人の参加者と共に、この会議に参加しました。アニのレポートによると、彼女は、貧困の根絶と、貧困が健康と環境に与える悪影響を低減することに必要不可欠な、経済システムの再構築と国際的な産業のコントロールという重点を、成果物の宣言に盛り込むように努力したと述べました。

アニは、2000年からの世界民衆保健運動(the People's Health Movement: PHM)のメンバーの1人として自分の働きについて語る事ができ、また修道女会とドロシー・スタンの話を他の参加者と共有する事ができました。会議は、アニにアボリジニの不公平に対する抵抗と彼らの生命と自然に対する愛を思い出させるような、アボリジニのダンスと歌で始まりました。[仮にドロシーが今も生きていれば、]ドロシーもこの会議をアットホームに感じたことでしょう。

より詳しく：<http://www.un-ngls.org/spip.php?article2857>

もしくはアニ宛てに Wihbey@SNDdeN.org までお書きください

MDG+10 約束を守る

投稿 2010年10月31日 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ

大統領護衛官、外交側近、閉鎖された国連本部、警備検問所、屋根の上の狙撃手、急ぐリムジン、鳴り響くサイレンー全てが、ミレニアム開発目標サミット(Millennium Development Goals Summit)に向けた、140か国の首脳の到着を示しました。世界のリーダーたちが、MDGsが採択されてから10年間で進展した進捗を検討し、目標である2015年までにゴールを達成するためにまだ遅れている困難な課題を評価しました。

この3日間のハイレベル会議は：

- 協力、パートナーシップ、行動、連帯を通じた、世界の全地域の国々による、MDGsにおける進捗を認めました。
- 金融・経済、食料安全保障、気候変動を含む、多様で相互に関連している危機が、特に開発途上国で、脆弱
- 性と不平等を増大させていると認識しました。

それぞれのゴール領域での進展を加速させるための詳細なアクションプランを作成しました。

より詳しく：<http://www.un.org/en/mdg/summit2010/>

<http://www.un.org/fr/mdg/summit2010/>

(4) センター活動に対する外部チェック・学生評価（試行）の記録

外部評価委員会からのアドバイスにそって、本学の地域連携・社会貢献活動に対する外部団体や学生からの評価を得る取り組みを試行した。まず包括連携協定を結ぶ団体、とくに近年、もっと連携事業が盛んな岡山市より地域連携・SDGs推進センターの活動についてフィードバックを得た。包括連携協定担当の政策局政策企画課より課長代理をお招きして、毎年送付している地域連携・SDGs推進センター実績報告書に掲載されている活動状況等について「ざっくばらんに」コメントをいただいた。まだ試行段階であり、ヒアリング内容については文字起こしを行って保管し、自己点検・評価等に活用している。

次いで、一部の在学生に対して、グーグルフォームを用いて匿名のアンケートを実施した。試行段階であり、2022年度はセンター長が担当する2つの授業でプレ調査を実施した。2023年度は

①包括連携協定締結団体（岡山市）からのフィードバック（試行）

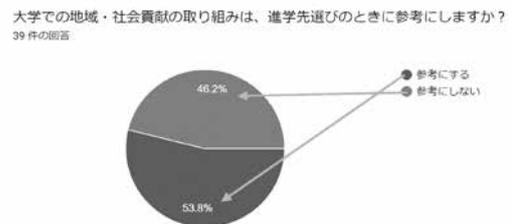
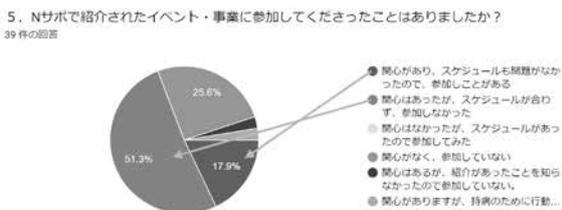
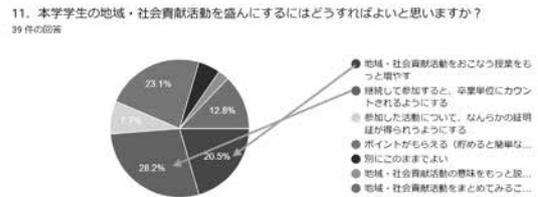
実施日：2022年10月31日（月）14時～16時 場所：本センター応接室

出席者：岡山市政策局政策企画課課長代理、本センター長、本センター職員

②一部在学生対象地域・社会貢献アンケート（試行）

・学科科目（A学科1年生必修）：2022年12月実施 N=40

・全学共通科目（全学科全学年）：2022年12月実施 N=39（以下に一部公表）



IV. 「清心フェリーチェ講座」(公開講座・生涯学習講座)の記録

生涯学習センター長 濱西栄司

1. 生涯学習センター：清心フェリーチェ講座

本学は、1992年から毎年、5講座ほどの無料公開講座(女性ライフ、文学、古典、実技、聖書)を実施してきた。2013年に生涯学習センターを設立し、それ以降、「清心 felice 講座」として毎年、生涯学習講座と公開講座を実施してきた。2022年度はちょうど10年目にあたる。生涯学習センター自体は独自の年報や報告書を発刊していないため、地域連携・SDGs推進センターの実績報告書に、ひろく社会連携の実績として「清心フェリーチェ講座」の記録を掲載することとした。なお両センターはセンター長及び事務室を同じくしており、日々の業務では連携をしている。

さて、生涯学習センターは、本学の建学の精神に基づき、岡山県唯一のキリスト教系大学としてキリスト教的価値観を、各種事業を通してひろく社会に発信するとともに、本学の知的財産を社会に還元する講座、生涯学習の場を提供し、もって地域社会の教育・文化・産業に寄与することを目的としている。各講座には、コーディネーター教員が配置され、講座内容については毎年、企画委員会で検討したうえで、運営委員会です承を得て実施されている。

2020・2021年度はコロナ禍によって講座は中止となったが、その間に自己点検・評価を行い、講座内容・広報の大幅な見直しを行った。ウェブサイト、SNSの活用やブログの活性化、オンライン申込、受講費用等見直しを行い、講座内容についても本学の建学の精神や社会的ニーズにそって、聖書・キリスト教文化講座、インクルーシブ社会・教育の講座、SDGs講座を柱として再編成を進めた。

2022年度は、4つの講座群15の講座で、のべ1541名の申し込み(一講座当たり102名)があった——2019年度はのべ29講座2152人(2特別講座(著名人))の申し込み(一講座当たり74名)。10代が10.8%、20代が25.3%と多く10～40代で受講者の半分以上を占めており、改善の結果、年齢層はある程度、バランスされるようになっている。また新規受講者も大きく増えたことも、申込時・受講後の受講生データ管理から把握している。たとえば、インクルーシブ講座では、全体257のアンケートのうち8割が新規受講者であった。また講座を知ったきっかけについては、家族・知人からが最多82名だが、2番目はホームページからが62名、3番が学内SNSで38名、4番目がTwitterから23名、とオンライン広報が効果をはっきりしていることが分かった。なお講座の満足度については、5段階尺度で、満足が93.7%、どちらかと言えば満足が5.9%を占めた。

このように10年目を迎える2022年度から大きく清心フェリーチェ講座のありようを持続可能かつ建学の精神・理念に沿ったものに大きく作り替えた。詳細は省くが、運営委員会と企画委員会の関係を整理することでガバナンス改革も進めることができた。

今後も建学の精神と社会的ニーズ、受講生のニーズに沿って、清心フェリーチェ講座の運営を進めていきたい。

生涯学習と
公開講座開講
7日か清心空天
7日から清心空天
ノートルム清心安
町大(岡山市北区伊福
学講座は3年ぶりに生
学講座公開講座「一
開く。従来より、土曜
本学、社大が参加
しやすくなりました。
生涯学習講座では、
キリスト教信仰につ
て分かりやすく解説
る。計6回で聖書を
がコースは、講義周
の「イエスの生涯」
に展開。SDGsは男
読み書きなら行う。
7日の初回は批評家・
随筆家の若松英輔さん
が登壇する。
ノートルダム清心安
町大(岡山市北区伊福
学講座は3年ぶりに生
学講座公開講座「一
開く。従来より、土曜
本学、社大が参加
しやすくなりました。
生涯学習講座では、
キリスト教信仰につ
て分かりやすく解説
る。計6回で聖書を
がコースは、講義周
の「イエスの生涯」
に展開。SDGsは男
各講座とも定員80
人。希望者は大学の
ホームページから申
込。詳しくは岡大生
活センター108
号室(8月15日)から教
学センター1045
号室(平日か土曜の午
中)。

『山陽新聞』2022年7月2日

2. 清心フェリーチェ講座の記録（2022～2013年度）

（1）2022年度

	開催日	講演・講座名	講師
公開講座			
SDGs 講座	12月10日（土）	男女共同参画=ジェンダー平等の過去・現在・未来	伊藤公雄
	12月17日（土）	瀬戸内・岡山の環境と SDGs	濱西栄司
インクルーシブ講座	8月23日（火）	全国各地の地域におけるインクルーシブ推進の動き	久保山茂樹
	10月1日（土）	生きづらい子どもたちの生活支援	山下美紀
	11月12日（土）	まちづくりのイノベーションとインクルーシブの関係	深谷信介
	12月3日（土）	通常教育の新しいあり方とインクルーシブ	青山新吾
	2月25日（土）	共生社会の形成に向けて～地域が変わる・地域を変える～： [基調講演]野口晃菜 / [パネルディスカッション] 司会：青山新吾 パネラー：野口晃菜、山下美紀、深谷信介	
生涯学習講座			
いきがいの人間学	7月9日（土）	沈黙から希望へ グリーフケアの人間学 第1回	入江 杏
	7月23日（土）	沈黙から希望へ グリーフケアの人間学 第2回	橋本品子
聖書講座	7月7日・8月4日・9月1日・ 10月6日・11月10日・ 12月1日(全木曜)	『イエスの生涯』で聖書を読む 第1～6回	若松英輔 (第1回のみ) 山根道公

（2）2021年度

コロナ禍のため中止

（3）2020年度

コロナ禍のため中止

（4）2019年度

	開催日	講演・講座名	講師
特別講演	8月10日（土）	平成最後の歌会始の儀 2019 入選者 2 名による対談	秋山美穂子 重藤洋子
聖書講座	10月26日（土）	旧約聖書の信仰の根底はどこにあるのか	雨宮 慧
	6月1日(土)本学・29日(土) 広島カトリック会館	マグダラのマリアー聖書、伝承、教会の聖人ー	原田豊己

いきがいの 人間学	6月29日(土)	没後40年 神谷美恵子に学ぶ：第1回 神谷美恵子『生きがいについて』の世界	若松英輔
	7月20日(土)	没後40年 神谷美恵子に学ぶ：第2回 『こころの旅』を読む～神谷美恵子の見つめた人生	崎川 修
キリスト教 文化への招 待	11月16日(土)	石牟礼道子『苦海浄土』の文学の現代への 生命的メッセージ	宮本久雄
	6月12日(水)・7月10日(水)	遠藤周作の生涯と文学－『沈黙』から『イエスの生涯』、『死海のほとり』へ	山根道公
	10月9日(水)・12月11日(水)	遠藤周作の生涯と文学－『鉄の首枷』『銃と十字架』『侍』	
	12月7日(土)・8日(日)	ルネサンス絵画を通してキリスト教美術を 学ぶ 第1回・2回	片山裕之
	10月17日・11月14日・1月16日(全木曜)	[グレゴリオ聖歌隊探訪-2] ～西洋音楽のめばえ～ Ⅰ オルガヌムと多声音楽 Ⅱ モテトゥスとミサ曲 Ⅲ 現在に生きるグレゴリオ聖歌	大谷文彦
文学への 招待	5月18日(土)	赤毛のアンの世界字－作者モンゴメリとその作品をもっと知るⅢ－ 第1回	赤松佳子
	10月5日(土)	同上 第2回	梶原由佳
	9月3日・10月1日・11月5日(全火曜)	源氏物語の世界－東屋の巻を中心に－	工藤進思朗
	11月30日(土)	古典籍ことはじめ ～その掛軸、開いてみよう！～	原 豊二
	10月9日(水)・23日(水)	近世文学にみる不義の恋～西鶴と近松の描いた「おさん茂兵衛」～ 第1回・第2回	野澤真樹
おかやま学 への招待	6月28日・7月12日・8月2日(全金曜)	岡山における近代建築の魅力	上田恭嗣
	9月7日(土)	歴史的視座から見た岡山の諸相 第1回	辰田芳雄
	9月14日(土)	同上 第2回	定兼 学
	9月28日(土)	同上 第3回	河合保生
	6月8日・15日・22日・7月6日・13日(全土曜)	謎解き『いふく学』講座 第1回	池田満之
	6月15日(土)	同上 第2回	池田満之
	6月22日(土)	同上 第3回	池田満之
	7月6日(土)	同上 第4回	池田満之
	7月13日(土)	同上 第5回	池田満之
考古学への 招待	10月19日(土)	2019年度キュルテベ遺跡(ユネスコ世界遺産暫定リスト登録)北トレンチ発掘調査報告－5000年前からのメッセージ－	紺谷亮一
	11月23日(土・祝)	岡山平野における古墳の出現－邪馬台国の時代の上伊福九ノ坪遺跡周辺－	松木武彦
食文化と 健康	11月2日(土)	日本人の伝統的食文化と乳酸菌	岡田早苗

実技講座	10月5日・19日・26日・11月9日・16日(全土曜)	石膏デッサンを楽しむ	片山裕之
	5月25日・6月1日・8日・15日・22日(全土曜)	新聞を読む・コラムを書く	木山博雅
親子であそぼうのびのび広場	5月18日(土)・25日(土)	親子であそぼうのびのび広場	安江美保
	6月8日(土)・22日(土)	親子であそぼうのびのび広場	伊藤美保子 片平朋世
	11月30日(土)	親子であそぼうのびのび広場	小田久美子
	7月6日・10月5日・26日(全土曜)	親子であそぼうのびのび広場	村中李衣・ 片平朋世・ 三宅一恵
	11月16日(土)	親子であそぼうのびのび広場	藤掛絢子
リカレント講座	10月20日(日)	小学校英語教育支援講座Ⅰ 第1回・第2回	福原史子
	10月20日(日)	小学校英語教育支援講座Ⅰ 第3回	Kristine Wakuri 福原史子
	11月10日(日)	小学校英語教育支援講座Ⅱ 第1回・第2回	福原史子
	11月10日(日)	小学校英語教育支援講座Ⅱ 第3回	Nathan Nishi 福原史子
語学講座	5月27日・6月24日・7月22日・9月30日・10月28日(全月曜)	TOEIC 支援講座	藤田貴美子
	10月5日(土)・19日(土)	Literature & the global citizen 第1回・第2回・第3回	Kathryn Bowes
	5月11日(土)・25日(土)	How to learn a new language 第1回・第2回・第3回	Waring Robert
	5月8日・22日・6月5日・19日・7月10日(全水曜)	文化から学ぶ韓国語(入門編)	呉 日煥
	9月11日・25日・10月9日・23日・11月13日(全水曜)	文化から学ぶ韓国語(初級編)	呉 日煥

(5) 2018年度

	開催日	講演・講座名	講師
特別講演	9月22日(土)	人と物語と	あさのあつこ
聖書講座	10月27日(土)	神の像である人間	雨宮 慧
	6月7日・14日・21日・28日・7月5日・12日(全木曜)	マルコによる福音書	原田豊己
いきがいの人間学	6月23日(土)	International Migration: A Complex Phenomenon in an Era of Deepening Globalization	Sr.Marie Anne Prefontaine
	6月30日(土)	〈星の王子さま〉に学ぶ～目に見えない大切なもの 第1回	崎川 修
	7月21日(土)	同上 第2回	竹原陽子

キリスト教文化への招待	11月24日(土)	マザー・テレサの生涯とその霊性	宮本久雄
	6月13日・7月11日・8月1日(全水曜)	遠藤周作の生涯と文学(その1) - 『母なるもの』他	山根道公
	10月10日・11月21日・12月12日(全水曜)	遠藤周作の生涯と文学(その2) - 『海と毒薬』他	山根道公
	12月1日(土)・2日(日)	ルネサンス絵画を通してキリスト教美術を学ぶ 第1回・第2回	片山裕之
	10月18日(木)	[グレゴリオ聖歌探訪] ~祈りの音楽~ I 単旋律聖歌と4線ネウマ譜	大谷文彦
	11月15日(木)・1月17日(木)	[グレゴリオ聖歌探訪] ~祈りの音楽~ II ミサ曲と歌ミサ III トロープスと ゼクウェンツィア	大谷文彦
	10月5日・19日・11月9日(全金曜)	教会の建築デザイン史 第1回・第2回・第3回	上田恭嗣
文学への招待	10月6日(土)	赤毛のアンの世界-作者モンゴメリとその作品をもっと知るII- 第1回	梶原由佳
	11月10日(土)	同上 第2回	吉村和敏
	9月4日・10月9日・11月6日(全火曜)	源氏物語の世界-宿木の巻を中心に-	工藤進思郎
おokayama学への招待	5月23日・30日・6月6日(全水曜)	岡山の言葉と文化	尾崎喜光
	9月8日(土)	歴史的視座から見た岡山の諸相 第1回	辰田芳雄
	9月15日(土)	同上 第2回	定兼 学
	9月22日(土)	同上 第3回	河合保生
考古学への招待	10月27日(土)	2018年キュルテベ遺跡北トレンチ発掘調査報告-中央アナトリア・トランスコーカサス・メソポタミア、三つ巴の文化融合-	紺谷亮一
食文化と健康	10月28日(日)	心理学から見た食の現在	今田純雄
清心への招待	11月8日(木)・22日(木)	古典籍の世界とその魅力	原 豊二
	7月5日(木)・12日(木)	ミッションスクールと女子教育の歩み	藤實久美子
	12月8日(土)	岡山平野のムラからクニへ-上伊福九ノ坪遺跡周辺の弥生時代史-	松木武彦
実技講座	10月6日・13日・20日・11月10日・17日(全土曜)	石膏デッサンを楽しむ	片山裕之
	5月1日・15日・22日・11月5日(全月曜)	からだにやさしいダンス 第1~4回	安江美保
	6月9日・16日・23日・30日・7月7日(全土曜)	新聞を読む・コラムを書く 第1~5回	木山博雅

親子であそぼうのびのび広場	5月19日(土)・6月2日(土)	親子であそぼうのびのび広場	安江美保
	6月16日(土)・7月7日(土)	親子であそぼうのびのび広場	伊藤美保子 片平朋世
	11月10日(土)	親子であそぼうのびのび広場	小田久美子
	10月6日(土)・20日(土)	親子であそぼうのびのび広場	村中李衣 三宅一恵
	10月13日(土)	親子であそぼうのびのび広場	藤掛絢子
リカレント講座	10月14日(日)	小学校英語教育支援講座Ⅰ 第1回	福原史子
	10月14日(日)	同上 第2回・第3回	Kristine Wakuri 福原史子
	11月11日(日)	小学校英語教育支援講座Ⅱ 第1回	福原史子
	11月11日(日)	同上 第2回・第3回	Nathan Nishi 福原史子
語学講座	5月28日・6月25日・7月23日・9月10日・10月22日(全月曜)	TOEIC 支援講座	藤田貴美子
	5月12日(土)・26日(土)	How to learn a new language 第1回・第2回・第3回	Waring Robert
	10月13日(土)・20日(土)	Literature & the global citizen 第1回・第2回・第3回	Kathryn Bowes
	5月9日・23日・6月13日・20日・7月11日(全水曜)	文化から学ぶ韓国語(入門編)	呉 日煥
	9月5日・19日・10月10日・24日・11月7日(全水曜)	文化から学ぶ韓国語(初級編)	呉 日煥

(6) 2017年度

	開催日	講演・講座名	講師
特別講演	7月8日(土)	現代人の心の癒し-「漱石のことば」をめぐって	姜 尚中
聖書講座	10月7日・21日・28日(全土曜)	聖書の人間観 第1～3回	雨宮 慧
いきがいの人間学	9月2日(土)	人間らしく生きて死ぬ道 第1回	保江邦夫
	9月9日(土)・16日(土)	同上 第2回・第3回	矢作直樹
	9月30日(土)	同上 第4回	保江邦夫

キリスト教文化への招待	11月11日(土)	歎異抄とキリスト教	宮本久雄
	6月14日・7月12日・8月2日(全水曜)	遠藤周作『沈黙』から『侍』へ(その1) 第1～3回	山根道公
	10月11日・11月8日・12月13日(全水曜)	遠藤周作『沈黙』から『侍』へ(その2) 第1～3回	山根道公
	12月2日(土)・3日(日)	ルネサンス絵画を通してキリスト教美術を学ぶ 第1回・第2回	片山裕之
	10月19日・11月16日・1月18日(全木曜)	音で綴った聖書～バツハに見る精神性～ Ⅰ.「マタイ受難曲Ⅰ」 Ⅱ.「マタイ受難曲Ⅱ」 Ⅲ.カンタータ第4番「キリストは死の縄目に繋がれたり」	大谷文彦
文学への招待	5月27日(土)・6月24日(土)	赤毛のアンの世界－作者モンゴメリとその作品をもっと知るⅡ－ 第1回・第2回	赤松佳子
	10月7日(土)	同上 第3回	梶原由佳
	9月5日・10月10日・11月7日(全火曜)	源氏物語の世界－早蕨の巻を中心に－	工藤進思郎
おかやま学への招待	9月9日(土)	歴史的視座から見た岡山の諸相 第1回	辰田芳雄
	9月16日(土)	同上 第2回	定兼 学
	9月30日(土)	同上 第3回	河合保生
	5月23日・30日・6月6日(全火曜)	岡山の言葉と文化	尾崎喜光
考古学への招待	10月14日・21日(土)	キュルテベ遺跡発掘調査(2015～2017)	紺谷亮一
食文化と健康	9月16日・10月28日・12月2日(全土曜)	食の入口から出口まで～わたしたちの健康を支える食と文化 第1～3回	今田節子 辨野義己 北畠直文
「大学史」から考える近現代	10月12日(木)・26日(木)	清心女子大学の貴重書・古典籍～和歌と物語の世界～	原 豊二
	10月7日(土)・11月11日(土)	ノートルダム清心女子大学の建築とその魅力 第1・2回	上田恭嗣
	7月7日(金)・14日(金)	女子教育の歴史と清心女子大学のミッション	藤實久美子
実技講座	10月7日・14日・21日・11月11日・18日(全土曜)	石膏デッサンを楽しむ	片山裕之
	10月2日・16日・23日・11月6日(全月曜)	からだにやさしいダンス 第1～4回	安江美保
	6月3日・10日・17日・24日・7月1日(全土曜)	新聞を読む・コラムを書く 第1～5回	木山博雅
親子であそぼうのびのび広場	5月20日(土)・6月3日(土)	親子であそぼうのびのび広場	安江美保
	5月27日(土)・7月1日(土)	親子であそぼうのびのび広場	伊藤美保子 片平朋世
	6月10日(土)・17日(土)	親子であそぼうのびのび広場	小田久美子
	10月7日(土)・21日(土)	親子であそぼうのびのび広場	村中李衣 三宅一恵

リカレント 講座	10月15日(日)	小学校英語教育支援講座Ⅰ 第1回	福原史子
	10月15日(日)	同上 第2回・第3回	Kristine Wakuri 福原史子
	11月12日(日)	小学校英語教育支援講座Ⅱ 第1回	福原史子
	11月12日(日)	同上 第2回・第3回	Nathan Nishi 福原史子
語学講座	5月22日・6月26日・ 7月24日・9月25日・ 10月23日(全月曜)	TOEIC 支援講座	藤田貴美子
	5月14日(土)・21日(土)	How to learn a new language 第1回・第 2回・第3回	Waring Robert
	10月14日(土)・ 21日(土)・27日	Literature & the global citizen 第1回・ 第2回・第3回	Kathryn Bowes
	5月17日・31日・6月14日・ 28日・7月12日(全水曜)	文化から学ぶ韓国語(入門編)	呉 日煥
	9月6日・20日・10月11日・ 18日・11月1日(全水曜)	文化から学ぶ韓国語(初級編)	呉 日煥

(7) 2016年度

	開催日	講演・講座名	講師
特別講演	7月2日(土)	私の長編小説「永遠の都」の創作 - 戦争と平和の時代	加賀乙彦
聖書講座	10月8日・22日・ 29日(全土曜)	聖書の人間観 第1～3回	雨宮 慧
フェリーチェ文化講座			
いきがいの 人間学	5月28日(土)	清心の「礎」に生きる 第1回	須沢かおり
	7月9日(土)	同上 第2回	マークル・ ジュディス
	6月25日(土)・7月16日(土)	死ぬ前の、死ぬ時の、そして死んでからの 生き様 第1・2回	保江邦夫
	7月23日(土)・30日(土)	同上 第3・4回	矢作直樹
キリスト教 文化への 招待	6月8日・7月13日・ 8月3日(全水曜)	遠藤周作と長崎—『沈黙』から『女の一生』 へ(その1) 第1～3回	山根道公
	10月12日・11月9日・ 12月14日(全水曜)	遠藤周作と長崎—『沈黙』から『女の一生』 へ(その2) 第1～3回	山根道公
	12月3日(土)・4日(日)	ルネサンス絵画を通してキリスト教美術を 学ぶ 第1回・第2回	片山裕之
	10月20日・11月24日・ 1月19日(全木曜)	バロック期のキリスト教音楽～ようこそ！プ レクラシックへ～ I. モンテヴェルディ「聖 母マリアの夕べの祈り」 II. バッハ「マ タイ受難曲」 III. バッハ「キリストは死の縄 目に繋がれたり」	大谷文彦

文学への招待	10月15日(土)	赤毛のアンの世界－作者モンゴメリをもっと知る 第1回・第2回	梶原由佳
	9月6日・10月11日・11月1日(全火曜)	源氏物語の世界－総角の巻を中心に その2－	工藤進思郎
歴史への招待	6月11日(土)	社会史的視点から社会や人々の生活、景観の変化を読み解く	辰田芳雄
	6月18日(土)	同上 第2回	定兼 学
	6月25日(土)	同上 第3回	河合保生
世界の考古学	10月1日(土)	世界の考古学 第1回	高宮いづみ
	10月8日(土)	同上 第2回	紺谷亮一
「大学史」から考える近現代	10月13日(木)・27日(木)	清心女子大学の貴重書・古典籍～正宗敦夫の眼～	原 豊二
	10月8日・11月12日・12月10日(全土曜)	岡山の近代建築遺産 第1～3回	上田恭嗣
	11月12日(土)・19日(土)	清心女子大学の歴史とミッション	藤實久美子
フェリーチェ実技講座			
美術	10月1日・8日・15日・22日・29日(全土曜)	石膏デッサンを楽しむ	片山裕之
ダンス	9月27日・10月11日・25日・11月8日(全火曜)	からだにやさしいダンス 第1～4回	安江美保
新聞を読む・コラムを書く	5月14日・21日・28日・6月4日・11日(全土曜)	新聞を読む・コラムを書く 第1～5回	木山博雅
親子であそぼうのびのび広場	4月23日(土)・4月30日(土)	親子であそぼうのびのび広場	小田久美子
	5月28日(土)・6月11日(土)	親子であそぼうのびのび広場	安江美保
	5月21日(土)・7月9日(土)	親子であそぼうのびのび広場	伊藤美保子 片平朋世
	10月8日(土)・29日(土)	親子であそぼうのびのび広場	三宅一恵
	11月26日(土)・12月3日(土)	親子であそぼうのびのび広場	本保恭子
リカレント講座	10月16日(日)	小学校英語教育支援講座Ⅰ 第1回	福原史子
	10月16日(日)	同上 第2回・第3回	Kristine Wakuri 福原史子
	11月13日(日)	小学校英語教育支援講座Ⅱ 第1回	福原史子
	11月13日(日)	同上 第2回・第3回	Nathan Nishi 福原史子
語学講座	5月16日・6月27日・7月25日・9月26日・10月24日(全月曜)	TOEIC 支援講座	藤田貴美子
	5月7日・21日・6月4日・18日(全土曜)	トラベル基礎英会話 第1～4回	キャロリン・スワスキー
	5月11日・25日・6月8日・22日・7月6日(全水曜)	アップグレード中国語	鄭 正浩
	5月18日・6月1日・15日・7月13日・27日(全水曜)	文化から学ぶ韓国語入門Ⅰ	朴 大虎
	9月7日・28日・10月12日・26日・11月9日(全水曜)	文化から学ぶ韓国語入門Ⅱ	朴 大虎

(8) 2015年度

	開催日	講演・講座名	講師
特別講演	7月4日(土)	中年期の危機と挑戦－許せる人になるために－	高木孝子
	10月31日(土)	最期の刻まで生きるとは	柳田邦男
聖書講座	11月14日・21日・28日 (全土曜)	聖書の人間観 第1～3回	雨宮 慧
フェリーチェ文化講座			
いきがいの 人間学	5月23日(土)	人生の終わりをみつめる 第1回	小谷みどり
	6月6日(土)	同上 第2回	加藤正春
	6月20日(土)	同上 第3回	崎川 修
	7月11日(土)	同上 第4回	須沢かおり
	7月25日(土)	同上 第5回	古口契児
	10月17日(土)	生殖医療の最前線－人生の始まりをみつめる－ [講演講師] 沖津撰 [パネリスト] 伊佐智子・阪本恭子・崎川修	
キリスト教文 化への招待	10月14日・11月11日・ 12月9日(全水曜)	遠藤周作『深い河』を読む 第1～3回	山根道公
	10月12日・11月9日・ 12月14日(全水曜)	遠藤周作と長崎一『沈黙』から『女の一生』 へ(その2) 第1～3回	山根道公
	12月5日(土)・6日(日)	ルネサンス絵画を通してキリスト教美術を 学ぶ 第1回・第2回	片山裕之
	10月15日・11月26日・ 1月14日(全木曜)	ルネサンス期のキリスト教音楽～グレゴリオ 聖歌からの離脱～	大谷文彦
	10月24日・11月21日・ 12月5日(全土曜)	近世から近代にいたる教会建築	上田恭嗣
文学への招待	5月12日・6月2日・ 30日(全火曜)	赤毛のアンの世界－マリラとアンの世界 第1～3回	赤松佳子
	9月8日・10月13日・ 11月10日(全火曜)	源氏物語の世界－総角の巻を中心に－	工藤進思郎
歴史への招待	6月6日(土)	吉田松陰と松陰をめぐる人びと 第1回・第2回	一坂太郎 道迫真吾
	6月20日(土)	同上 第3回	
	6月20日・27日・ 7月11日(全土曜)	岡山の歴史－地図・空中写真・史料から 歴史的景観を読み解く	辰田芳雄 河合保生
	10月10日・17日・ 24日(全土曜)	世界遺産を歩く	紺谷亮一 新納 泉
フェリーチェ 実技講座	10月3日・10日・17日・ 24日・31日(全土曜)	石膏デッサンを楽しむ	片山裕之
ダンス	9月15日・29日・10 月13日・27日(全火曜)	からだにやさしいダンス 第1～4回	安江美保
新聞を読む・ コラムを書く	5月14日・21日・28日・ 6月4日・11日(全土曜)	新聞を読む・コラムを書く 第1～5回	木山博雅

親子であそぼうのびのび広場	5月23日(土)・7月11日(土)	親子でクッキング	本学児童学科教員及び学生
	5月30日(土)・6月13日(土)	からだであそぼ!	
	6月27日(土)・7月4日(土)	nds cooking studio -小麦粉粘土を使ったお菓子工作-	
	11月28日(土)・12月5日	動くおもちゃをつくろう	
	毎週水曜 (4月から翌年3月)	親子であそぼう・話そう	
リカレント講座	10月25日(日)	小学校で英語を教える支援講座 第1回	福原史子 下山俊子
	11月15日(日)	同上 第2回	福原史子 Kristine Wakuri
	11月29日(日)	同上 第3回	福原史子 Nathan Nishi
	10月28日・11月4日・11日・25日・12月2日(全水曜)	お仕事復活ナビ～もう一度働きたいあなたのために～	中西由美香 中川洋子
キャリア養成講座			
語学講座	6月20日・7月18日・9月19日・10月24日(全月曜)	TOEFL 支援講座	クリストファー・クレイトン
	5月25日・6月22日・7月27日・9月28日・10月26日(全月曜)	TOEIC 支援講座	藤田貴美子
	5月9日・23日・6月6日・20日(全土曜)	トラベル基礎英会話 第1～4回	キャロリン・スワスキー
	5月13日・27日・6月10日・24日・7月1日(全水曜)	文化から学ぶ中国語入門	鄭 正浩
	9月9日・30日・10月14日・28日・11月11日(全水曜)	文化から学ぶ韓国語入門	朴 大虎
就活力養成講座	5月13日・20日・27日・6月3日・10日(全水曜)	一歩踏み出す就活ナビ!魅力的な自分へのブラッシュアップ～知識編～	中西由美香 中川洋子
	6月24日・7月1日・8日(全水曜)	一歩踏み出す就活ナビ!採用現場から見た就職活動～トレーニング編～	中西由美香 中川洋子
	10月7日・14日・21日(全水曜)	一歩踏み出す就活ナビ!素敵な社会人の第一歩～心構えと基本知識～	中西由美香 中川洋子

(9) 2014年度

	開催日	講演・講座名	講師
特別講演	7月5日(土)	聖書と現代	曾野綾子
	7月12日(土)	変えられないものと、変えられるもの	渡辺和子
聖書講座	10月11日(土)	聖書と現代社会パート② 第1回	荒井 献
	10月25日(土)	同上 第2回	高木孝子
	11月8日(土)	同上 第3回	雨宮 慧
	11月22日(土)	同上 第4回	百瀬文晃
	12月6日(土)	同上 第5回	大貫 隆

フェリーチェ文化講座			
いきがいの 人間学	5月24日(土)	ケアと人間 第1回	葛生栄二郎
	6月7日(土)	同上 第2回	岡野八代
	6月21日(土)	同上 第3回	上野千鶴子
	7月19日(土)	同上 第4回	入江 杏
	7月26日(土)	同上 第5回	高木慶子
	10月18日(土)	「もの学び」「学び直し」の文化講座 第1回	広嶋 進
	10月25日(土)	同上 第2回	中村潤子
	11月15日(土)	同上 第3回	永原順子
	11月22日(土)	同上 第4回	池田 元
	11月29日(土)	同上 第5回	横山 學
キリスト教文 化への招待	10月8日・11月12日・ 12月10日(全水曜)	キリスト教文学パート②-遠藤周作 『イエスの生涯』『死海のほとり』を読む	山根道公
	9月27日・10月4日(全土曜)	キリスト教美術パート②-シンボルを読み 解く〈中世から近代まで〉 第1～3回	荒田千鶴
	10月16日・11月20日・ 1月15日(全木曜)	キリスト教音楽パート②-「中世のキリスト 教音楽」～グレゴリオ聖歌がもたらしたもの～	大谷文彦
	10月25日・11月15日・ 22日(全土曜)	キリスト教建築パート②-中世における教会建築	上田恭嗣
文学への招待	5月8日・6月12日・ 7月10日(全火曜)	宮沢賢治の世界-『銀河鉄道の夜』を読む	山根知子
	10月14日・11月11日・ 12月9日(全火曜)	源氏物語の世界	工藤進思郎
歴史への招待	6月6日・13日・20日 (全金曜)	三国志の世界-中国史と皇帝-	鈴木 真
	10月11日(土)	聖書の考古学 第1回	紺谷亮一
	10月18日(土)	同上 第2回	須藤寛史
	10月25日(土)	同上 第3回	山口雄治
フェリーチェ 実技講座	10月11日・18日・25日・ 11月8日・15日(全土曜)	石膏デッサンを楽しむ	片山裕之
	9月30日・10月7日・14日・ 21日・27日(全火曜)	からだにやさしいダンス	安江美保
親子であそ ぼうのびの び広場	5月24日(土)・6月28日(土)	親子でクッキング	本学児童学 科教員及び 学生
	6月14日(土)・21日(土)	からだであそぼ!	
	7月19日(土)・26日(土)	nds cooking studio -小麦粉粘土を使った お菓子工作-	
	11月15日(土)・11月29日(土)	動くおもちゃをつくろう	
	毎週水曜 (5月から翌年3月)	親子であそぼう・話そう	

キャリア養成講座			
リカレント 教育講座	10月26日(日)	外国語活動支援講座 第1回	福原史子 下山俊子
	11月16日(日)	同上 第2回	福原史子 Kristine Wakuri
	11月30日(日)	同上 第3回	福原史子 Nathan Nishi
	12月13日(土)・20日(土)	表現運動指導支援講座 第1回・第2回	安江美保
語学講座	5月24日・31日・6月7日・14日(全土曜)	TOEFL 支援講座	クリストファー ・クレイトン
	5月26日・7月28日・9月29日・12月22日・2月23日(全月曜)	TOEIC 支援講座	藤田貴美子
	5月10日・24日・6月7日・21日(全土曜)	海外サバイバルイングリッシュ	キャロリン・ スワスキー
	5月13日・27日・6月10日・24日・7月1日(全水曜)	文化から学ぶ中国語入門	鄭 正浩
	9月9日・30日・10月14日・28日・11月11日(全水曜)	文化から学ぶ韓国語入門	朴 大虎
手話講座	5月7日・21日・6月4日・18日・7月2日・16日・30日・8月20日(全水曜)	手話講座(入門編①) 第1～8回	羽原裕子 佐藤千春 村上京子
	10月1日・15日・29日・11月12日・26日・12月10日・1月7日(全水曜)	手話講座(入門編②) 第1～7回	羽原裕子 佐藤千春 村上京子
就活力養成 講座	5月7日・14日・21日(全水曜)	一歩踏み出す就活ナビ!魅力的な自分へのブラッシュアップ～知識編～ 第1～4回	中西由美香 中川洋子
	6月18日・25日・7月2日・9日(全水曜)	一歩踏み出す就活ナビ!採用現場から見た就職活動～トレーニング編～ 第1～5回	中西由美香 中川洋子
	10月22日(水)・29日(水)	一歩踏み出す就活ナビ!素敵な社会人の第一歩～心構えと基本知識～ 第1～3回	中西由美香 中川洋子

(10) 2013年度

	開催日	講演・講座名	講師
特別講演	7月7日(日)	咲くということ	渡辺和子
	12月14日(土)	人間の自由	渡辺和子
聖書講座	10月12日(土)	聖書と現代社会 第1回	荒井 献
	10月26日(土)	同上 第2回	高木孝子
	11月9日(土)	同上 第3回	雨宮 慧
	11月16日(土)	同上 第4回	百瀬文晃
	12月7日(土)	同上 第5回	大貫 隆

フェリーチェ文化講座			
いきがいの 人間学	7月13日(土)	老いと人間 第1回	高木孝子
	7月20日(土)	同上 第2回	上野千鶴子
	7月27日(土)	同上 第3回	綾目広治
	10月5日(土)	同上 第4回	佐野(藤田) 真理子
	10月19日(土)	同上 第5回	溝渕雅幸
	10月26日(土)	いきいき子育てライフ 第1回	石原金由
	11月16日(土)	同上 第2回	平松清志
	11月30日(土)	同上 第3回	小田久美子
	1月25日(土)	同上 第4回	梶谷恵子
	2月15日(土)	同上 第5回	青山新吾
	3月15日(土)	同上 第6回	吉永早苗
キリスト教文 化への招待	10月9日・11月13日・ 12月11日(全水曜)	キリスト教文学-遠藤周作『沈黙』を読む	山根道公
	10月4日・11日・18日 (全金曜)	キリスト教美術-ルネサンス美術との出会い	藤原 眸
	10月17日・11月21日・ 12月12日(全木曜)	キリスト教音楽-「バッハへの道」グレゴリ オ聖歌と西洋音楽	大谷文彦
	10月12日・26日・ 11月30日(全土曜)	キリスト教建築-古代宗教建築と教会建築	上田恭嗣
文学への招待	7月13日(土)	英文学を楽しむ 第1回	山根知子
	9月14日(土)・10月19日(土)	同上 第2・3回	山下光昭
	11月16日(土)・12月21日(土)	同上 第4・5回	足立萬壽子
フェリーチェ 実技講座	10月5日・12日・19日・26 日・11月9日(全土曜)	石膏デッサンを楽しむ	片山裕之
	10月1日・8日・15日・ 22日・29日(全火曜)	からだにやさしいダンス	安江美保
キャリア養成講座			
リカレント 教育講座	10月27日(日)	外国語活動支援講座 第1回	福原史子 下山俊子
	11月10日(日)	同上 第2回	赤木雅宣 杉能道明
	11月24日(日)	同上 第3回	福原史子 Kristine Wakuri
	12月8日(日)	同上 第4回	伊藤豊美
	7月14日(日)	英語科教育支援講座	岩堂秀明
	7月21日(日)	同上 第2回	福原史子 Christopher Creighton
	7月28日(日)	同上 第3回	Christopher Creighton
	8月4日(日)	同上 第4回	伊藤豊美
	11月2日(土)・9日(土)	表現運動指導支援講座 第1・2回	安江美保

語学講座	7月13日・20日・27日・ 8月3日(全土曜)	TOEFL 支援講座 第1～5回	クリストファー ・クレイトン
	7月22日・9月30日・ 11月25日・12月16日・ 1月27日(全月曜)	TOEIC 支援講座 第1～5回	藤田貴美子
保育士試験 講座	5月15日(水)・22日(水)	保育士試験講座 子供の心理学① 第1～3回	湯澤美紀
	5月29日・7月31日(全水曜)	保育士試験講座 社会福祉① 第1～3回	高尾 肇
	5月29日(水)	保育士試験講座 子どもの保険 第1回	清板芳子
	6月12日(水)・19日(水)	同上 第2・3回	本保恭子
	6月12日・19日・26日 (全水曜)	同上 子どもの食と栄養① 第1～3回	築山依果
	6月26日(水)・7月10日(水)	同上 児童家庭福祉① 第1～3回	本保恭子
	7月17日・24日	同上 社会的養護① 第1～3回	本保恭子
就活力養成 講座	7月17日・8月8日・ 21日・28日(全水曜)	就活マナー講座 第1～4回	外山あづさ
	2月26日(水)・3月 5日(水)・19日(火)	就活面接対策講座 第1～3回	中村 剛 山本美佐子
	2月19日(水)・3月6日(木)・ 25日(火)	就活グループディスカッション対策講座 第1～3回	中村 剛 山本美佐子
	9月24日(火)	社会人基礎力アップ講座	外山あづさ
	10月26日(土)	同上 第2回	中村 剛
	11月9日(土)・16日(土)	同上 第3・4回	外山あづさ

地域連携・SDGs推進センター実績報告書 [2022(令和4)年度]

2023年7月発行

編集・発行 ノートルダム清心女子大学 地域連携・SDGs推進センター
〒700-8516 岡山県岡山市北区伊福町二丁目16番9号
TEL 086-252-7054
FAX 086-252-7044

印刷 有限会社 ダイニ印刷
〒700-0961 岡山県岡山市北区北長瀬本町13番26号
